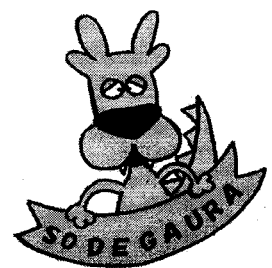


袖ヶ浦市幼児教育カリキュラム



平成29年11月

袖ヶ浦市





はじめに

近年、わが国では、少子・高齢化や核家族化、情報化やグローバル化など、子どもを取り巻く社会環境が大きく変化し、また、保育や幼児教育に関するニーズも多様化してきています。

そのような中、子どもの育ちをめぐることは、本来、家庭や地域で育まれてきた基本的な生活習慣や人とのかかわる力、規範意識、幼児期で身に付けなければならないことに対する保育・幼児教育の在り方も変化が求められています。

教育現場では、子どもの健やかな育ちを支えていくことが、より一層求められており、幼児期における保育・幼児教育は、子どもの生きる力や生涯に渡る人間形成の基礎を培う上で重要な役割を担っています。

本市では、子どもたちの今と未来のために、更なる子育て環境の向上に向けて、様々な取り組みを進めています。今回、その一環として保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園において質の高い保育・幼児教育の提供や小学校への滑らかな接続をするための共通的な教育の指針となる「袖ヶ浦市幼児教育カリキュラム」を策定いたしました。

この「袖ヶ浦市幼児教育カリキュラム」は、0歳児から5歳児までの発達に応じて、確実に経験させたい内容を年齢別に明らかにするとともに、その指導方法や小学校への滑らかな接続等も例示したものです。

今後、本カリキュラムを活用し、保育・幼児教育の実践を充実させ、小学校教育へつなげることにより、本市の次代を担う一人ひとりの子どもの学びと育ちがより一層確かなものとなることを祈念しています。

平成29年11月

袖ヶ浦市長 出口 清



あいさつ

乳幼児期は、心情、意欲、態度、基本的な生活習慣など、人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期といわれます。この時期に生活や遊びの中で様々な経験を十分にすることが、人として成長していく過程において最も大切なことです。

本市ではこれまでに平成23年に「幼児教育振興アクションプログラム」、平成27年に「袖ヶ浦市子育て応援プラン」を策定し、幼児教育や子育てに対して総合的な指針と具体的な方針を明記し、幼児教育全体の質の向上を図ってきました。この「袖ヶ浦市幼児教育カリキュラム」は保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園における共通の教育指針です。これを明確にすることで、更に質の高い保育・幼児教育を提供することができると考えています。

さて、本市では、平成30年度に幼保連携型認定こども園を誘致し、平成31年度には市立幼稚園2園を統合して、1園体制とすることにしています。背景には、将来的な需要を見込んだ適切な規模の施設整備、市民の多様な保育・幼児教育のニーズへの対応などがあります。そのような中、幼児教育の質の向上や特色ある教育の充実を求める声があがっています。また一方では、保育需要が今後増えていくことも見込まれる中、保育所での幼児教育を充実させてほしいとの声もあります。

そのような状況だからこそ、本カリキュラムの必要性は高く、その活用により、今後より一層の、一貫した保育・幼児教育の実践と、小学校への滑らかな接続が行われることを期待しています。

平成29年11月

袖ヶ浦市教育委員会教育長

御園 朋夫

目次

第1章 総説

- 1 策定にあたって 1
 - (1) 策定の趣旨
 - (2) 袖ヶ浦市幼児教育カリキュラムの考え方について
 - (3) 「生きる力の基礎」の育成
 - (4) 袖ヶ浦市の育てたい子どもの姿
- 2 幼児教育カリキュラムを活用した保育・幼児教育課程の編成 5
- 3 発達の目安と育ちの連続性 6

第2章 保育・幼児教育課程

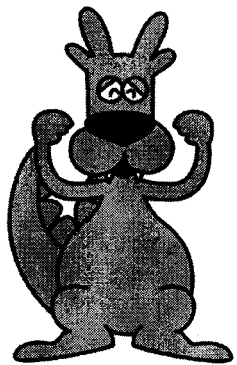
- 1 保幼連携における保育・幼児教育課程 10
- 2 年間指導計画 14
 - (1) 0歳児
 - (2) 1歳児
 - (3) 2歳児
 - (4) 3歳児
 - (5) 4歳児
 - (6) 5歳児
- 3 特別な支援を要する幼児への保育・幼児教育 36

第3章 小学校への接続

- 1 滑らかな接続 39
- 2 幼児教育カリキュラムからの小学校の指導の在り方 39
- 3 保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の
アプローチカリキュラム 40
 - (1) 学ぶ力について
 - (2) かかわる力について
 - (3) 生活する力について
 - (4) 小学校との交流計画例
- 4 スタートカリキュラム（入学間もない時期の各教科・領域の指導） 44
 - (1) 入学期（4月第1週）の指導のポイント
 - (2) 指導の実際
 - (3) 1年生の年間を通した生徒指導計画例
- 5 資料 51

(参考)

- 策定までの経緯 52
- 策定組織 53



第1章 総説

1 策定にあたって

(1) 策定の趣旨

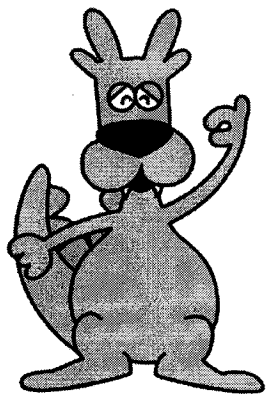
(2) 袖ヶ浦市幼児教育カリキュラムの考え方について

(3) 「生きる力の基礎」の育成

(4) 袖ヶ浦市の育てたい子どもの姿

2 幼児教育カリキュラムを活用した保育・幼児教育課程の編成

3 発達の日安と育ちの連続性



1 策定にあたって

(1) 策定の趣旨

人の一生において、乳幼児期は、心情、意欲、態度、基本的な生活習慣など、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期である。乳幼児期の子どもが、生活や遊びといった直接的・間接的な経験を通して、情緒的・知的な発達や社会性を育み、人としてよりよく生きるための基礎を獲得していくことは、充実した生活を営む上で最も大切なことである。

しかしながら近年、少子化や核家族化、都市化が進む中で、人々の価値観や生活様式が急激に変化してきている。また、人間関係が希薄化するなど、子どもの育ちをめぐる環境も変化しており、乳幼児期における保育・幼児教育の在り方も時代に合わせしていく必要がある。

このような状況の中、平成24年に公布された「子ども・子育て支援関連3法」により、就学前の子どもへの保育・幼児教育並びに家庭や地域に対する子育て支援策を一体的・総合的に推進していくことになり、平成26年に告示された幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、質の高い保育及び教育を一体的に提供するため、家庭や地域の実態に即した保育及び教育の内容に関する全体的な計画を作成することが求められた。

本市においては、平成23年3月に策定した袖ヶ浦市教育振興計画「第2期袖ヶ浦市教育ビジョン」の中で、幼児教育の重要性に鑑み、『生きる力』の基礎を培う幼児教育の推進」を掲げ、幼児教育の充実と特色ある幼稚園づくり、保育所・幼稚園・小学校の連携、幼稚園における子育て支援体制整備の3点を中心に取り組んできた。また、「袖ヶ浦市幼児教育振興アクションプログラム」を策定し、「健康な心と身体と社会性を育むこと」「思いやりのある豊かな心を育むこと」「人と関わる力を育むこと」を総合的な指針として、幼児教育全体の質の向上を図ってきた。

平成27年度の袖ヶ浦市子ども・子育て支援事業の新制度を開始するにあたり、平成25年度に「袖ヶ浦市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査」を実施した。

その結果、保育需要の増加が見込まれるとともに、保育所でも幼児教育を希望したり、幼稚園に教育の質のさらなる向上や保育サービスの拡充を求めたりするなど、多様なニーズがあることがわかった。

そこでニーズ調査の結果を踏まえ、平成27年度の総合教育会議において、以下の4点が確認された。

- ①袖ヶ浦市がこれまで培ってきた保育・幼児教育の経験と実績を最大限に生かし、一体となった保育・幼児教育を推進する。
- ②一貫した保育・幼児教育の提供により、発達の連続性を確保し、義務教育へ円滑につなげる基礎を培うものとする。
- ③心身の健康に関する「健康」や人とのかかわりに関する「人間関係」「言葉」「表現」「環境」といった内容を中心に、生きる力の基礎を育成する。
- ④保護者の就労状況にかかわらず、就学前の子どもの健やかな成長と等しく保育・幼児教育を受けることのできる機会を提供する。

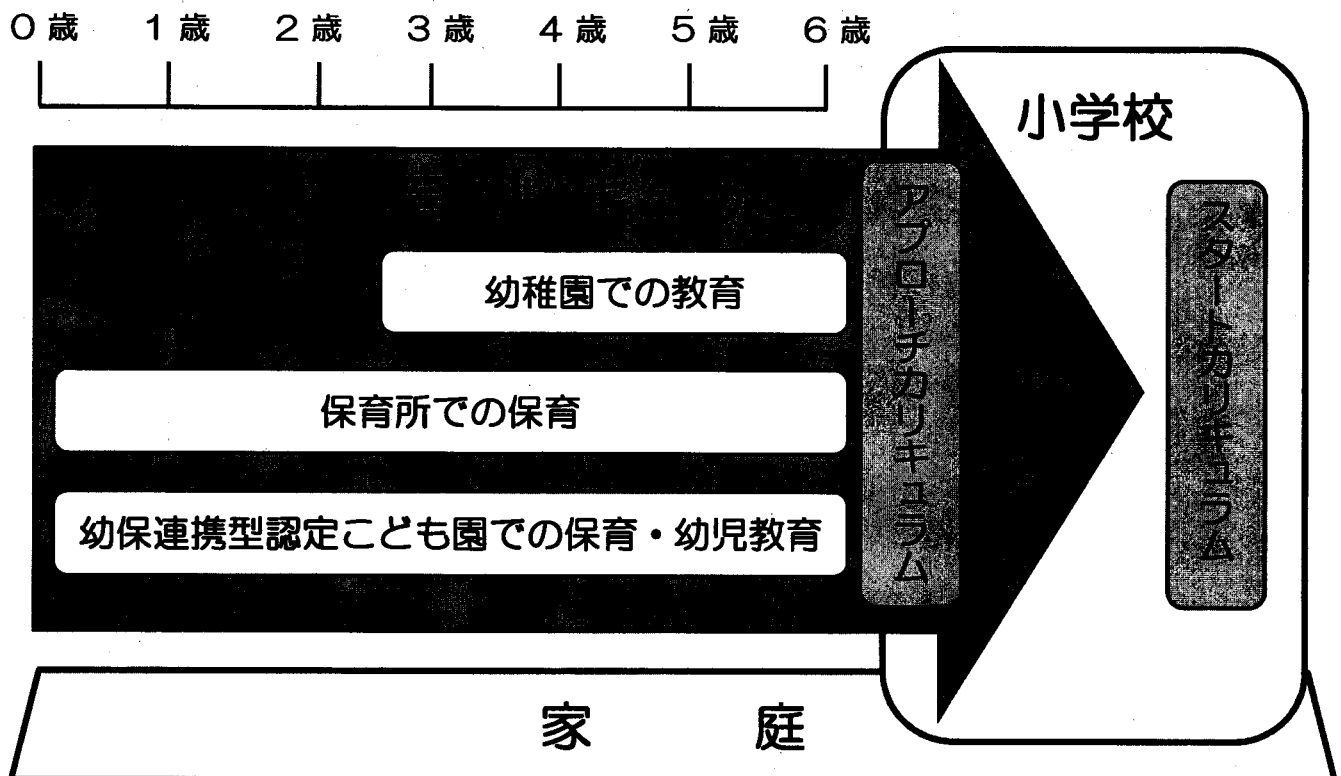
これらを踏まえ、より質の高い保育・幼児教育を提供するとともに、保幼連携の強化、さらには小学校への滑らかな接続を目指し、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園における共通的な保育・幼児教育の内容に関する全体的な教育の指針として、「袖ヶ浦市幼児教育カリキュラム」を策定することとした。

本カリキュラムは、袖ヶ浦市に在住する全ての幼児が、乳幼児期にふさわしい経験を確実に積み重ねて小学校に入学できるようにすること、そして袖ヶ浦市の保育士・幼稚園教諭及び小学校教諭等が、このカリキュラムを活用して、指導の振り返りや工夫・改善を行うことで、保育・幼児教育の質的向上を図ることを目的として策定したものである。また、市立の保育所、幼稚園、小学校のみならず、私立の幼保連携型認定こども園、幼稚園、保育園においても活用されることにより、市内全体の保育・幼児教育の充実が図られることを期待している。

(2) 袖ヶ浦市幼児教育カリキュラムの考え方について

保育所・幼稚園はそれぞれの設置目的や制度運営上の違いを持ちながらも保育・幼児教育を担う機関として重要な役割を果たしている。本市公立保育所・公立幼稚園でも保育所保育指針及び幼稚園教育要領に則って、それぞれ特色ある保育・幼児教育を行ってきた。しかし、前述のニーズ調査の結果から、本市ではこれまで実践してきた保育・幼児教育活動をもとに共通の教育指針「袖ヶ浦市幼児教育カリキュラム」を作成し、幼児教育施設の区分を問わず、同年齢の子どもたちに生きる力の基礎を育成することとした。

また、本カリキュラム第3章では小学校に滑らかに接続し、いわゆる「小1プロブレム」を未然に防ぐために、卒園までに育てたい姿と指導のポイントを明らかにした。さらに、小学校の入学期の指導の実際にも触れ、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園と小学校とが連携を図れるようにしている。

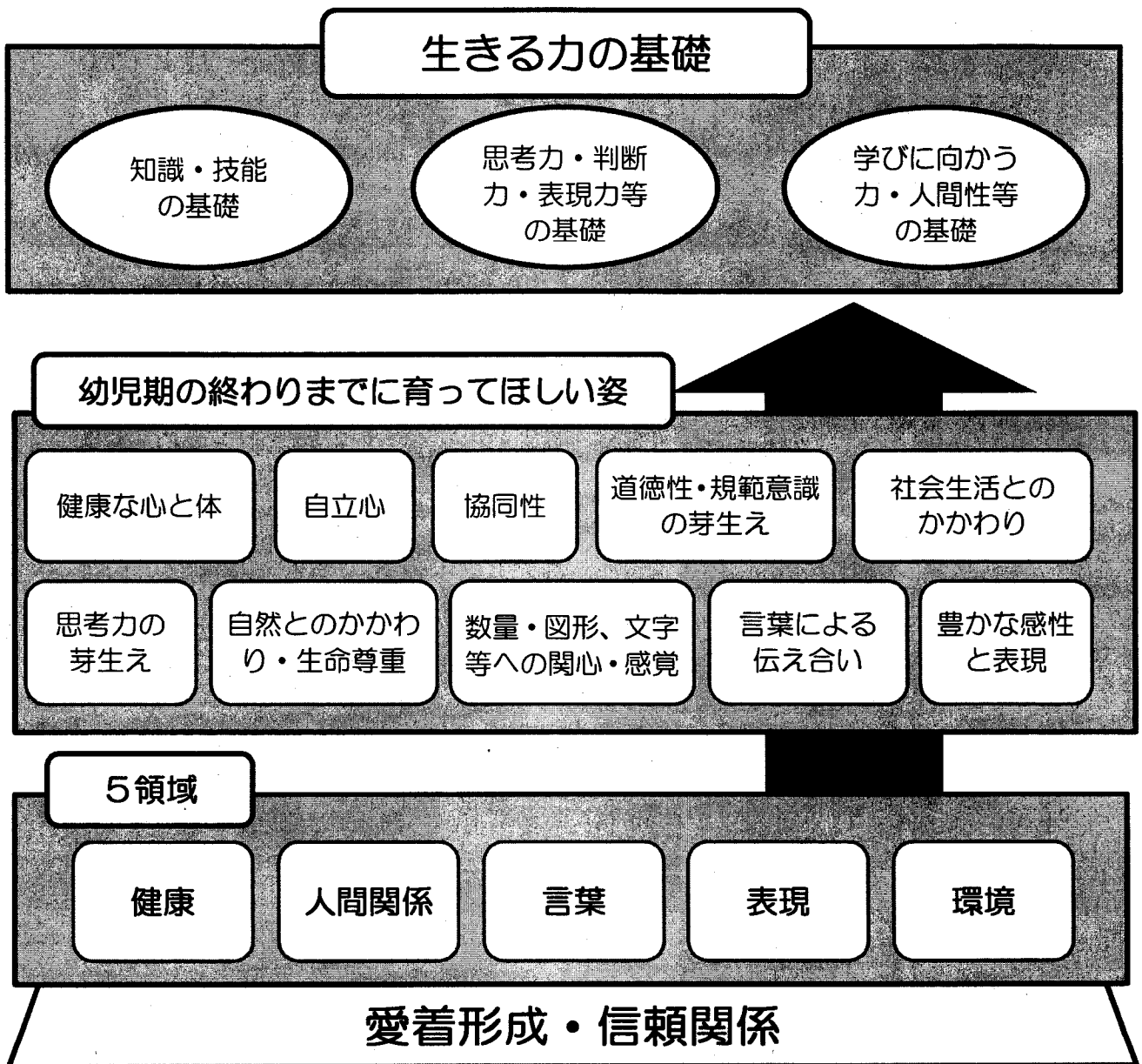


(3) 「生きる力の基礎」の育成

乳幼児期は、親や周囲の人たちとの愛着形成や信頼関係を基礎とした情緒の安定が最も大切となる。これは、情緒の安定が充実した人生の土台となるからである。

小学校入学までの幼児期は、義務教育及びその後の人生を豊かに生きるための基礎をつくる時期である。そのため、この時期の教育は知識や技能を獲得するための基礎、思考力・判断力・表現力等を発揮するための基礎、学びに向かう力やその人間性等の基礎を土台とする「生きる力の基礎」を培う役割を担っている。

そこで、充実した人生を送るための「生きる力の基礎」を、保育所保育指針、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている5領域と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を一体的に育むように努めるものとする。



(4) 袖ヶ浦市の育てたい子どもの姿

幼児が自己肯定感を抱き、基本的な生活習慣を身に付け、自ら主体的に人や物とかかわるなど、幼児期に相応しい経験を十分に重ねることが大切である。

そこで、以下に生きる力の基礎を身に付けた子どもの具体的な視点を示し、保育・幼児教育の目標とする。

「生きる力の基礎を身に付けた子ども」の具体的な視点

知識・技能の基礎を身に付けた子ども

- 様々な事象に対し興味や関心を持ち、主体的にかかわる。
- 自分の考えを相手に分かるように伝えたり、友達や先生の話に関心を持って聞いたりする。
- めあてを達成するために、繰り返し考えたり、試したりしながら、最後までやり遂げる。
- 遊びや課題に対して、経験したことを取り入れたり、身近な道具の性質を生かしたりして取り組む。
- 生活や遊びを通して感じたことや考えたことを、様々な方法で表現することを楽しむ。

思考力・判断力・表現力等の基礎を身に付けた子ども

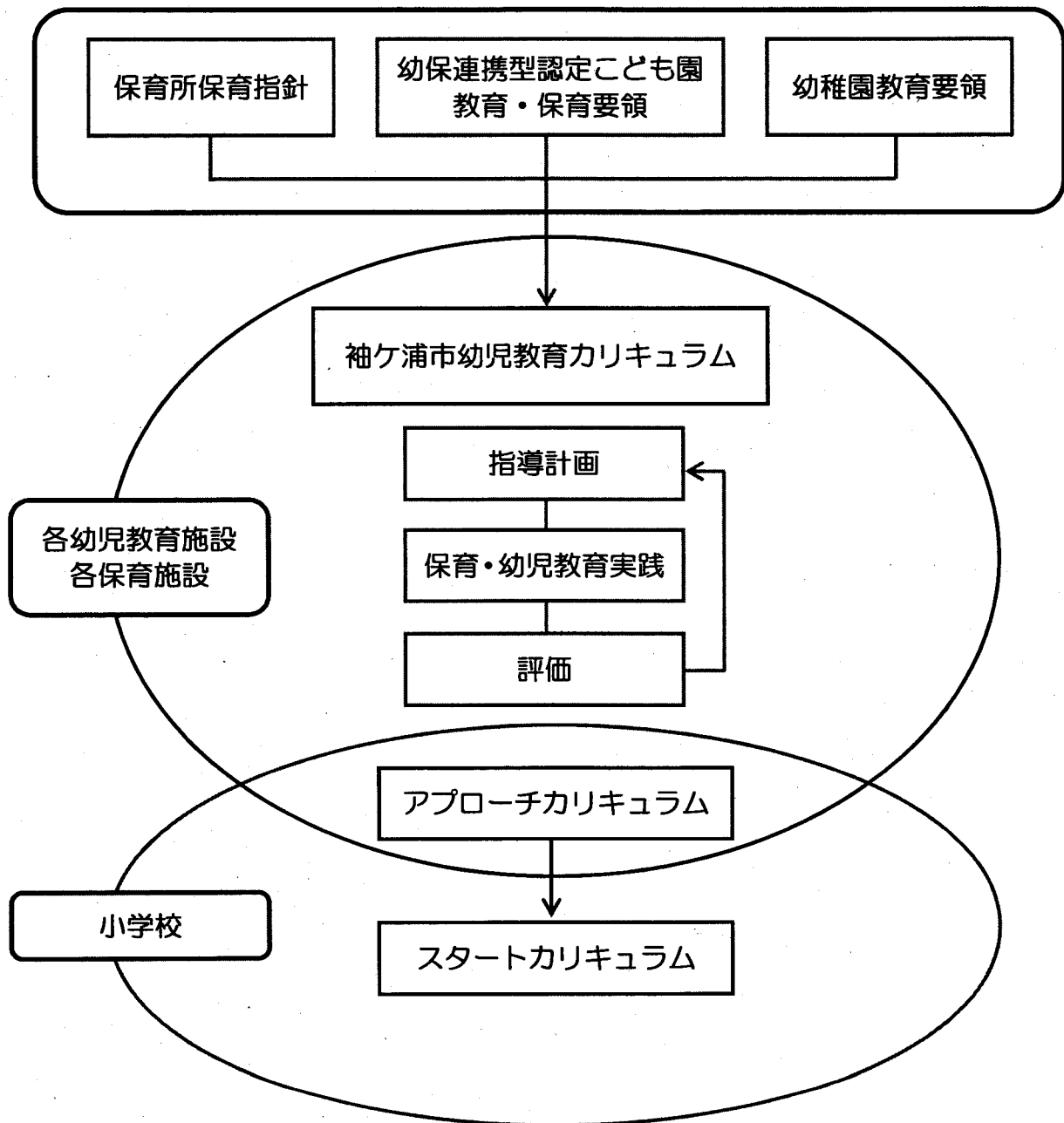
- 様々な人への信頼感を持ち、自分の思いや考えを表現する。
- 友達の思いを受け止め、相手の気持ちを思いやって言動する。
- 互いの良さを認めて協力したり、一緒に課題を解決したりしながら遊ぶ。
- 物事の善悪を区別して考えたり、自分の気持ちを調整したりして行動する。
- 動植物など命あるものを大切にする。

学びに向かう力・人間性等の基礎を身に付けた子ども

- 衣服の着脱、食事、排泄、身辺整理など生活に必要な活動の必要性に気づき、自分のことは自分で行おうとする。
- 体を動かす心地よさを感じ、進んで遊ぼうとする。
- 遊びの場面に応じて、体の各部位を十分に動かそうとする。
- 友達や先生と一緒に食べることを楽しもうとする。
- 集団での生活の流れなどを予測して、活動に見通しを持って行動しようとする。

2 幼児教育カリキュラムを活用した保育・幼児教育課程の編成

保育・幼児教育課程は、小学校教育との連携・接続を前提に、確実に経験させたい内容を明らかにするとともに、具体的な指導法を示したものであり、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」は、保育所や幼稚園等の保育・幼児教育の基本としてその内容を示したものである。また、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」は、質の高い保育と幼児教育を提供する観点に従って作成されている。よって、下図に示したように保育・幼児教育課程の編成にあたっては、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の三者のねらい及び内容の整合性を図ることに留意する。



3 発達の日安と育ちの連続性

保育・幼児教育内容の中から、その時期の発達の特徴的な姿を取り上げたものである。個人によりあらわれに多少の差があるが、保育・幼児教育の日安として考える。

生きる力の基礎

| | | 0 歳 児 | 1 歳 児 |
|------------------------------|------------------|--|---|
| 健康 人間関係 言葉 表現 環境 | 生活習慣 全身・手指の運動 | <ul style="list-style-type: none"> ○首のすわり、寝返り、お座り、ハイハイ、つかまり立ち、伝い歩きができる。 ○手、指に触れたものを握る。 ○食事、睡眠、遊びのリズムが安定する。 ○眠気、空腹、便意など、生理的欲求を泣いて伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ○歩き始める。 ○手で投げる、足で蹴るなどの動きをする。 ○立ったり座ったり自由に体勢を変えることができる。 ○指先が自由に動かせるようになり、つまむ、たたく、ちぎるなどの動きができるようになる。 |
| | 対人関係 自己の発見 | <ul style="list-style-type: none"> ○親しみを持っている人を目で追う。 ○あやすと笑い、語りかけに喃語やしぐさで応答する。 ○人見知りをする。 ○自己主張が始める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自己主張が始める。 ○身近な人に興味や関心を持ち、かかわろうとする。 ○身近な人と同じことをして喜ぶ。 |
| | 伝える | <ul style="list-style-type: none"> ○「うーうー」など、口を動かして声を出すことを楽しむ。 ○「マンマ」「ワンワン」など、音声と対象が結び付く。 | <ul style="list-style-type: none"> ○単語や「ワンワンねんね」などの二語文を話す。 ○「なに、これ」と繰り返し聞くようになる。 |
| | 感じる | <ul style="list-style-type: none"> ○快や不快を笑ったり泣いたりすることで表現する。 ○身振り手振りで感情表現をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○クレヨンなどで、なぐり描きをする。 ○歌や曲を聴いて、気に入った場面を声や体の動きで表現する。 |
| | わかる | <ul style="list-style-type: none"> ○音のするものに興味を示す。 ○人や物など、動くものを目で追う。 ○身の回りのものに手を伸ばし、触れたりなめたりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ボールを転がしたり、投げたり、捨ったりすることを楽しむ。 ○積み木やブロックを並べたり、積んだり、崩したりする。 ○砂、水、落ち葉など、身近なものに触れ、感触を楽しむ。 |

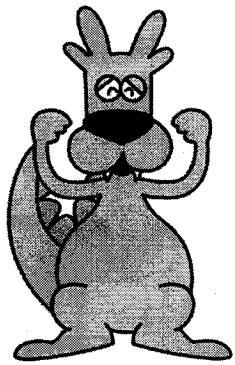


| 2 歳 児 | 3 歳 児 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○小走り、跳ぶ、昇り降り、押す、引くなど、体のバランスを保ちながら動く。 ○指先で押さえたり、引っ張ったり、ひねったりする。 ○スプーン、フォークを使って食事をする。 ○大人に手助けされながら、着脱や排泄を自分でしようとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の体の動きをコントロールする。 ○鉄棒にぶら下がったり、ジャングルジムを登ったりするようになる。 ○簡単な折り紙を折る。 ○食事、排泄、衣服の着脱など、自分からしようとする。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○自己主張が強くなる。 ○一方的な指示に従わなくなり、自分で行おうとする。 ○男の子と女の子との違いに興味を示し、相手の性別もわかり始める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の思い通りにしようとする。 ○友達に興味や関心を示す。 ○自分の好きな遊び場にいる友達とかかわって遊ぶ。 ○簡単なルールのある小集団遊びを身近な大人を交えて楽しむ。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○「いや」「もっと」「なんで？」など、自分の気持ちを言葉で表現する。 ○したいこと、してほしいことを身近な相手に簡単な言葉で伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ○「おはよう」「ありがとう」など、人とかわかる。 ○あいさつの言葉を自分から使うようになる。 ○「なんで」「どうして」といった質問を多くするようになる。 ○見たことや思ったことをすぐに言葉にする。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○クレヨンでたくさんの円を描いたり、同じ形のもを次々と描いたりして意味付けを始める。 ○「～のマネ」と意図をもって動いたり、「～みたい」と見立てたりし始める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○少しずつ形のある絵を描くようになる。 ○顔から手足が出る「頭足人」の絵を描き始める。 ○自分なりに感じたことや思ったことを表現して遊ぶ。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○積み木を動かして「電車」と言うなど、モノや行為そのものからイメージを広げる。 ○身近にあるものを見立てて走らせるなど、見立て遊びをする。 ○形、大小、色などに関心を持つ。 | <ul style="list-style-type: none"> ○身近な素材や用具を使って、自由に描いたり作ったりすることを楽しむ。 ○身近なものの大小、色、形、多い少ないなどの違いに気付く。 |

| | | 4 歳 児 |
|------|------------------|---|
| 健康 | 生活習慣 全身・手指の運動 | <ul style="list-style-type: none"> ○ケンケン、スキップをする。 ○両手を別々に用いて一つのことをする。 ○茶碗に手を添えて、箸を使って食事をする ○衣服の着脱や様々な身の回りのことを順序立ててやろうとする。 |
| 人間関係 | 対人関係 自己の発見 | <ul style="list-style-type: none"> ○少しずつ自分の気持ちをコントロールできるようになる。 ○遊びたい友達ができ、自分からかかわっていく。 ○人の求めていること、好みがわかって、一緒にやろうとする。 ○「貸し借り」「順番」が見られるようになる。 |
| 言葉 | 伝える | <ul style="list-style-type: none"> ○「ぼく」「わたし」を代名詞として使える。 ○「だって」を使い、はっきりと理由をもって主張する。 ○ふざけて乱暴な言葉や汚い言葉を使い喜ぶことがある。 |
| 表現 | 感じる | <ul style="list-style-type: none"> ○天地（太陽や地面）のある絵を描くようになる。 ○自分なりのイメージを持ち、遊び場をつくったり、見立てたりして遊ぶ。 |
| 環境 | わかる | <ul style="list-style-type: none"> ○身近な素材を使って、遊びに必要なものを作る。 ○生活の中で必要に応じて数を数えたり、量の多少を比べたりする。 ○身近な自然環境に興味を示し、かかわろうとする。 (水・砂・土・草花・虫・樹木) |



| 5 歳 児 | 6 歳 児 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○上手投げでボールを投げる、足でボールを蹴る。 ○小さなものをつまむ、紐を結ぶ、雑巾を絞るといった動作ができるようになる。 ○安全に気を付けて遊具用具を使う。 ○おおまかな一日の予定を理解することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ルールのあるゲームの中で、素早く動いたり止まったりすることができる。 ○様々な運動が巧みになる。 ○跳び箱の開脚跳びができる。 ○ボールをキャッチする、ドリブルをする。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○約束を守ろうとしたり、相手の気持ちを察したりすることができ始める。 ○役割を分担したり、協力したりする喜びを感じる。 ○自己存在感を持つ。 ○互いの思いを伝え合える友達関係が持てるようになる。 ○周囲の状況に目を向け、自分の行動を考えられるようになる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○見通しを持って段取りを立てる力がついてくる。 ○社会の規範意識が身に付き、行動する。 ○自己を客観視し、多面的な見方ができる。 ○互いに教え合い、助け合う力がついてくる。 ○子ども同士でルールに基づく役割交代、勝ち負けのチーム遊びを楽しむことができる。 ○自分の主張を一步ゆずって、仲間と強調したり意見を調整したりする。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○文字を読んだり書いたり、数を数えたりすることに興味を持ち始める。 ○体験したり感じたりしたことを言葉で表現することを楽しむ。 ○相手にわかるように話す。 | <ul style="list-style-type: none"> ○目の前にいない人にも気持ちを伝えようと書き言葉を身に付け、使い始める。 ○自作のストーリーを使って演じる。 ○経験したことや考えたことを話し、伝え合うことができる。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○全身面を描くようになる。 ○イメージを持ちながら、作ったり描いたりすることができる。 ○曲の雰囲気を感じながら歌ったり、友達と気持ちを合わせて歌ったりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分のイメージしたように描いたり、細かな制作をしたりする。 ○完成をイメージしながら作り上げる。 ○歌詞の意味を理解しながら、声をそろえて歌う。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○色々な材料を使って、自分なりに工夫して表現する。 ○左右対称、上下対称、配色を意識してものを作る。 ○生活の中で、数量、図形、時間に関心を持つ。 ○身近な動植物に興味や関心を持つ。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分のイメージしたことを、様々な素材や用具を選んで描いたり作ったりする。 ○文字や数を使った遊びを繰り返し楽しみ、自分たちの遊びや生活に取り入れていく。 ○身近な動植物の世話をすることで、その成長や生態に興味や関心を持つ。 |



第2章 保育・幼児教育課程

- 1 保幼連携における保育・幼児教育課程
- 2 年間指導計画
 - (1) 0歳児
 - (2) 1歳児
 - (3) 2歳児
 - (4) 3歳児
 - (5) 4歳児
 - (6) 5歳児
- 3 特別な支援を要する幼児への保育・幼児教育

1 保幼連携における保育・幼児教育課程

| 年 齢 | | 0歳児 |
|--|---|--|
| 保育目標（年齢の重点事項） | | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとり生理的欲求を満たして、機嫌よく過ごせるようにする。 ●保育教諭との触れ合いを通して情緒の安定を図りながら人とかかわりの芽生えを育む。 |
| ねらい | | 重点事項 |
| 養護 | 生命の保持 | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの子どもが、快適に生活できるようにする。 ●一人ひとりの子どもが、健康で安全に過ごせるようにする。 ●一人ひとりの子どもの生理的欲求が、満たされるようにする。 ●一人ひとりの子どもの健康増進が図られるようにする。 |
| | 情緒の安定 | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの子どもが、安定感を持って過ごせるようにする。 ●一人ひとりの子どもが、気持ちを安心して表せるようにする。 ●一人ひとりの子どもが、周囲から主体として受け止められ、育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする。 ●一人ひとりの子どもの心身の疲れが癒されるようにする。 |
| 教育 | 健康 | <ul style="list-style-type: none"> ●健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。 (1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 (2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。 |
| | 人間関係 | <ul style="list-style-type: none"> ●他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。 (1) 生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 (2) 身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感を持つ。 (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。 |
| | 言葉 | <ul style="list-style-type: none"> ●経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞くこととする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。 (1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 (2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 (3) 日常生活に必要な言葉がわかるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、保育教諭や友達と心を通わせる。 |
| | 表現 | <ul style="list-style-type: none"> ●感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。 (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ。 (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。 |
| | 環境 | <ul style="list-style-type: none"> ●周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。 (1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合い様々な事象に興味関心を持つ。 (2) 身近な環境で発見を楽しんだり、考えたりし、生活に取り入れようとする。 (3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、ものの性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。 |
| 食育 | <ul style="list-style-type: none"> ●健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培う。 | <ul style="list-style-type: none"> ●座る、這う、立つ、伝い歩きといった運動機能が目覚ましく発達する。 ●安心して保育教諭とじっくりかかわることにより、信頼関係を深め、まわりへの興味関心を持つ。 ●優しく語りかけたり、歌いかけたり、泣き声や喃語に答えながら保育教諭とのかかわりを楽しいものにする。 ●快や不快を訴えて気持ちを表現し、快感、安心感を求めようとする。 ●生活や遊びの中で、保育教諭のすることに興味関心を持ったり、模倣したりすることを楽しむ。 |
| 共通留意事項 | <p>〈健康支援〉・年間保健指導計画 ・内科検診（年2回） ・歯科検診 ・身長、体重測定（毎月） ・怪我や熱等、病気時の対応 ・心身状態や家庭生活、養育状態の把握 ・尿検査の実施 〈家庭との協働〉・子育てパートナーとして保護者と一緒に子どもを育て保護者と一緒に成長を喜ぶ。 〈地域との連携〉・保育所・園が中心となり地域の人々が持っている力を引き出していく。</p> | |
| <p>対象者 3号認定（満3歳未満で保育認定を受けた者）及び2号認定（満3歳以上で教育及び保育認定を受けた者） ＊満3歳児の考え方：2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に保育・幼児教育が</p> | | |

| 1歳児 | 2歳児 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●探索行動する中で、自然や身近なものに触れて遊び、好奇心や興味関心を持てるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●安心できる保育教諭とのかかわりのなかで、自我の芽生えを育む。 |
| 重点事項 | 重点事項 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●子どもの自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●家庭と連携し、発達過程に応じた適切な生活リズムを作る。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの子どもの気持ちを十分理解し、受容していく中で、自分の気持ちを安心して表せるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●保育教諭に様々な要求を受け入れてもらい、親しみを持ち安心感を持って生活する。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●見立て遊びができるようになる。 ●身近な人やものへの興味関心が育ってくる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●保育教諭や友達と触れ合い、安心感を持って行動する。 ●進んで戸外で遊ぶ。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●保育教諭に見守られながら外遊びや一人遊びをするなかで友だちと一緒に過ごすことを喜ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ●安心できる保育教諭との関係の下で、身近な大人や友達に興味関心を持ち、模倣して遊んだり、親しみをもって自らかかわろうとする。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●保育教諭の応答的なかわりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●親しみを持って日常のあいさつをする。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●保育教諭と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたり模倣などをしたりして楽しむ。 ●水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ●生活の中で様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりなどして楽しむ。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●子どもの驚きや発見を受け止め、好奇心や興味関心を満たすようにする。 ●好きな玩具や遊具に興味関心を持って関わり、様々な遊びを楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ●身近なものを大切にする。 ●自然などの身近な事象に興味関心を持つ。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな食べ物に慣れ、よく噛んで食べる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●食事のマナー（基本的な習慣や態度）を覚え、食べることを楽しむ。 |

〈小学校との連携〉・要録の送付 ・学校見学 ・就学に向けて小学校との引継ぎを行う。
 〈意見・要望・相談〉・担当者が書面における体制を整え、全職員で問題を共有していく。
 〈安全対策・事故防止〉・毎月の避難訓練 ・消防点検 ・救命講習会 ・事故防止チェック ・施設設備安全管理
 ・医薬品点検

行われるという観点から、実際の現場においては月齢差を考慮したかわりと見通しを持って子どもと接する。

| 年 齢 | | 3歳児 | |
|--|--|---|---|
| 保 育 目 標 (年齢の重点事項) | | ●基本的な生活習慣を身に付け、自分の気持ちを言葉や行動で表現できる。 | |
| ね ら い | | 重 点 事 項 | |
| 養 護 | 生命の保持 | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの子どもが、快適に生活できるようにする。 ●一人ひとりの子どもが、健康で安全に過ごせるようにする。 ●一人ひとりの子どもの生理的欲求が、満たされるようにする。 ●一人ひとりの子どもの健康増進が図られるようにする。 | ●適切な運動と休息を取ることができるようにし、子どもが意欲的に生活できるよう、適切に支援する。 |
| | 情緒の安定 | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの子どもが、安定感を持って過ごせるようにする。 ●一人ひとりの子どもが、気持ちを安心して表せるようにする。 ●一人ひとりの子どもが、周囲から主体として受け止められ、育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする。 ●一人ひとりの子どもの心身の疲れが癒されるようにする。 | ●一人ひとりの子どもの気持ちや考えを理解して受容し、保育教諭との信頼関係の中で、自分の気持ちや考えを安心して表すことができるようにする。 |
| 健康 | 健康 | <ul style="list-style-type: none"> ●健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。 (1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 (2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ●保育教諭や友達と触れ合い、安定感を持って行動する。 ●進んで戸外で遊ぶ。 ●健康な生活のリズムを身に付ける。 ●様々な活動に楽しんで取り組む。 ●身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの活動を自分でする。 |
| | 人間関係 | <ul style="list-style-type: none"> ●他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかわる力を養う。 (1) 生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 (2) 身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感を持つ。 (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ●保育教諭や友達と安定した関係の中で、共に過ごすことの喜びを味わう。 ●共同の遊具や用具を大切に、みんなで使う。 |
| 教 育 | 言葉 | <ul style="list-style-type: none"> ●経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。 (1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 (2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 (3) 日常生活に必要な言葉がわかるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、保育教諭や友達と心を通わせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●保育教諭と一緒にごっこ遊びなどをする中で、言葉のやり取りを楽しむ。 ●保育教諭や友達の言葉や話に興味関心を持ち、親しみを持って聞いたり、話したりする。 ●生活の中で必要な言葉がわかり、使う。 ●生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。 |
| | 表現 | <ul style="list-style-type: none"> ●感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。 (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ。 (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ●生活の中で様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りなどに気付き、感じて楽しむ。 ●歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。 ●描いたり作ったりすることを楽しみ、それを遊びに使ったり、飾ったりする。 |
| | 環境 | <ul style="list-style-type: none"> ●周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。 (1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合い様々な事象に興味関心を持つ。 (2) 身近な環境で発見を楽しんだり、考えたりし、生活に取り入れようとする。 (3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、ものの性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。 ●季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。 ●自然などの身近な事象に興味関心を持ち、遊びや生活に取り入れようとする。 ●身近なものを大切にする。 |
| 食 育 | <ul style="list-style-type: none"> ●健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培う。 | <ul style="list-style-type: none"> ●食事のマナーを身に付け、みんなと一緒に食べることの楽しさを味わう。 ●作物の栽培や収穫を通して、食べ物に興味関心を持つ。 | |
| 共通留意事項 | <p>〈健康支援〉・年間保健指導計画 ・内科検診(年2回) ・歯科検診 ・身長、体重測定(毎月)</p> <p>・怪我や熱等、病気時の対応 ・心身状態や家庭生活、養育状態の把握・尿検査の実施</p> <p>〈家庭との協働〉・子育てパートナーとして保護者と一緒に子どもを育て保護者と一緒に成長を喜ぶ。</p> <p>〈地域との連携〉・保育所・園が中心となり地域の人々が持っている力を引き出していく。</p> | | |
| <p>対象者 3号認定(満3歳未満で保育認定を受けた者)及び2号認定(満3歳以上で教育及び保育認定を受けた者)</p> <p>*満3歳児の考え方:2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に保育・幼児教育が</p> | | | |

| 4歳児 | 5歳児 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●集団の中でのびのびと自己を発揮し、友達と遊ぶ楽しさを味わう。 | <ul style="list-style-type: none"> ●集団生活の中で、共通の目的に向かって友達と認め合いながら協力してやり遂げようとする。 |
| 重点事項 | 重点事項 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●健康や安全の大切さを知らせ、環境作りに努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ●生活習慣が身につく、危険な場所や遊びを理解し、自主的に行動できるようにする。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●子どもの気持ちを温かく受容し、自己肯定感を育てる。 ●子どもが安心して自分を出し、他者からも認めてもらえた喜びを感じられるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●達成感や自信を持つことで充実感を味わえるようにしていく。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな遊びの中で十分に身体を動かす。 ●園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しを持って行動する。 ●自分の健康に興味関心を持ち、病気の予防など必要な活動を進んで行く。 | <ul style="list-style-type: none"> ●危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり安全に気を付けて行動する。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●自分でできることは自分でする。 ●友達の良さに気づき、活動する楽しさを味わう。 ●友達とかかわり喜びや悲しみを共感し合う。 ●自分の思いを相手に伝え、相手の思いに気付く。 ●よいことや悪いことに気づき、考えて行動する。 ●友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気づき、守ろうとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●自分で考え自分で行動する。 ●友達と活動する中で、共通の目的を見だし、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。 ●身近な友達とかかわりを深め、異年齢の友達など様々な友達とかかわり、思いやりや親しみを持つ。 ●高齢者を始め地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持つ。 ●外国人など異文化をもつ人たちに親しみを持つ。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●したこと、見たこと、聞いたこと、味わったこと、感じたこと、考えたことなどを自分なりに言葉で表現する。 ●したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、わからないことを尋ねたりする。 ●人の話を注意して聞き、相手にわかるように話す。 ●いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。 ●絵本や物語などに親しみ、興味関心を持って聞き、想像する楽しさを味わう。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●生活の中で美しいものや心動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。 ●いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ●自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。 ●感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由に描いたり、作ったりする。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●生活の中で、様々なものに触れ、その性質や仕組みに興味関心を持つ。 ●身近な動植物に親しみを持ち、いたわったり、大切にしたり、作物を育てたり、味わうなどして、生命の尊さに気付く。 | <ul style="list-style-type: none"> ●身近な物や遊具に興味関心を持ってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。 ●日常生活の中で簡単な標識や国旗、文字などに興味関心を持つ。 ●日常生活の中で数量や図形などに興味関心を持つ。 ●近隣の生活に興味関心を持ち、園内外の行事などに参加する。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●食材に興味関心を持ち、食べることの大切さを知る。 ●作物の栽培や収穫を通して、食べ物に興味関心を持つ。 | <ul style="list-style-type: none"> ●自分達で調理や食事を楽しむ工夫をする。 ●体と食べ物に関係に興味関心を持ち、何でも食べる。 ●作物の栽培や収穫を通して、食べ物に興味関心を持つ。 |
| <p>〈小学校との連携〉・要録の送付 ・学校見学 ・就学に向けて小学校との引継ぎを行う。 〈意見・要望・相談〉・担当者が書面における体制を整え、全職員で問題を共有していく。 〈安全対策・事故防止〉・毎月の避難訓練 ・消防点検 ・救命講習会 ・事故防止チェック ・施設設備安全管理 ・医薬品点検</p> | |

行われるという観点から、実際の現場においては月齢差を考慮したかかわりと見通しを持って子どもと接する。

2 年間指導計画

(1) 0歳児 年間指導計画

| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●保健的（衛生面、室内外の温度と湿度）で安全な環境を作り、常に体の状態を細かく観察し、シブツや窒息死、その他の疾病や異常の発見に努め快適に生活できるようにする。 ●一人ひとりの子どもの生活リズムを大切に、よく寝、よく飲み、よく食べて排泄などの生理的欲求を満ち、機嫌よく過ごせるようにする。 ●特定の保育教諭とのふれあいを通して甘えなどの依存的欲求を満ち、情緒の安定を図りながら人とのかかわりの芽生えを育む。 | | |
|--------------------------|--|--|---|
| 月齢 | 2ヶ月～ | 6ヶ月～ | 9ヶ月～ |
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ●授乳、食事、睡眠、遊びのリズムが徐々に始める。 ●目覚めているときは、周囲への関心を示し、見る、聞く、手足を動かすなど、まどろみの状態が少なくなる。 ●泣いていても人の声が聞こえると泣きやんだりする。また、あやすと声を出して笑い手足をばたばたさせるようになる。 ●3ヶ月くらいになると首がしっかりすわってくる。 ●4、5ヶ月位から寝返りをするようになる。 ●自分の手をかざして眺めたりしゃぶったりするようになる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●離乳食の移行が進み、食べることを喜んで、自分から食べ物に手を伸ばそうとする。 ●人見知りや警戒心、甘えなどの、いろいろな感情が出てきて、嫌なときは強く泣いたりする。 ●「いないいないばあ」を喜ぶ。 ●音がするものや動くものに盛んにかかわろうとする。 ●脇の下を支えられピョンピョンはねる。 ●「パーパー」「アプー」など喃語を盛んに発する。 ●腹ばいやすりばいやピボットターンをするようになる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●手づかみで食べ、こぼしながらもコップで飲めるようになる。 ●興味関心のある物を指差したり、小さい物をつまんだり、引っ張り出すなど、指先の機能が発達してくる。 ●玩具を両手に持って打ちつけたり、玩具箱に手を入れて中の物を取り出したり、紐を引っ張って玩具を自分の方へ引き寄せたり、二つの物と同時にかわれるようになる。 ●ハイハイや、お座りができるようになり欲しいものをめがけて、這って遊んだり、興味関心と意欲が旺盛になる。 ●名前を呼ばれると振り向く。 |
| 保育教諭のかかわりの視点 (育てたい内容) | <ul style="list-style-type: none"> ●オムツ交換の時は、ゆったりとした気持ちで接し、話しかけたり手足を優しく動かしたりして心地よさを感じさせる。 ●授乳時は、視線を合わせてやさしく語りかけながらゆったりとした気持ちで飲ませる。 ●一人ひとりの生活リズムを大切に、安心して眠れる環境をつくる。 ●縦抱き、仰向けからうつ伏せ、膝の上に座るなど、やさしく体位を変えてもらい全身の動きを楽しむ。 ●安心できる保育教諭との継続的なかかわりを通して情緒の安定を図り、人とのかかわりの芽生えを育む。 | <ul style="list-style-type: none"> ●離乳食は一人ひとりの状態に応じて家庭と連絡を取り合いながら無理なく進めていく。(4、5ヶ月～) ●抱っこしたり、やさしく声を掛けたりするなどしながらゆったりとした雰囲気なかで保育教諭と1対1のふれあいを大切にする。 ●母体免疫が弱まり、感染症にかかりやすく日ごろの様子を十分観察し、変化が見られた時は適切に対応する。 ●腹ばいからお座りへと姿勢を変えたり、寝返りやハイハイなどの体を移動する遊びができたりするように環境を整えていく。 ●つかむ、叩く、引っ張る、入れたり出したりなど手、指を動かして遊べる玩具を用意する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●「モグモグしようね」と、口の動きを見せたり「おいしいね」など言葉や掛けながら楽しい雰囲気なかでゆったりと食事ができるようにする。 ●周りのあらゆるものに興味関心を示し、なんでも口に入れたがる時期なので安全、清潔に十分配慮し、やりたいことが存分にできるようにする。 ●子どもたちが安心して気持ちを通わせることができるよう側に寄り添い喜び合い、励ましや必要な手助けができるようにする。 ●「チョウダイ」「ドウソ」など、保育教諭とのかかわり遊びを十分楽しむ。 |
| 家庭との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ●日々の体調（体温、食欲、機嫌、睡眠など）について相互に細かく伝え合う。(年間) ●微笑みかけ、言葉かけ、スキンシップの大切さを理解し、優しい大人のまなざしと、ゆったりとした雰囲気の中で生活できるようにしていく。 | | |
| 看護 | <ul style="list-style-type: none"> ●連絡帳や送迎時の連絡、懇談会などを通して家庭との連絡を密にし、相互のやりとりを通して子どもの育ちを共有し合えるようにしていく。 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの生活リズムや特異体質（アレルギー、痙攣）を知り、快適に過ごせるようにする。 ●毎日の視診や触診を行う。 ●担当保育教諭を決め、なるべく同じ保育教諭がかかわることで、安心して保育所生活を送れるようにする。 ●生理的欲求を満ち、機嫌よく過ごせるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●体調の変化に留意し、健康で快適に過ごせるようにする。 ●保育教諭に気持ちを受け止めてもらい、一人ひとりの子が自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●こまめに水分補給を行い、十分に休息がとれるようにし、汗をかいたら着替えるなど暑さで体調を崩さないように気を付けていく。 ●子どもの思いや欲求を受け入れ、気持ちを共有することで安心感を持って過ごさせる。 ●子どもが指差しや仕草で訴える要求や欲求に一つ一つずつ丁寧に応えながら相互のやり取りを楽しむ。 |

- 安心できる環境の中でふれあい遊びを楽しんだり、聞く、見る、触れるなどの経験を通して、身の回りの物に対する興味関心や好奇心の芽生えを育んだりする。
- 子どもの感情や喃語に適切に応えたり、優しく語りかけたりすることで、発語の意欲を育てる。
- 活動しやすいくつろいだ環境の中で、個人差に留意し、座る、這う、立つといった運動や身体機能の発達をめざし、いろいろな遊びを楽しむ。
- 個人差に応じて授乳や離乳を進め、さまざまな食品に慣れさせ、無理なく幼児食への移行を図る。

| 1歳～ | 1歳3ヶ月～ | 1歳6ヶ月～ |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●好んでいた食べ物を嫌がるなど、むらごたえたりする。 ●2回寝から1回寝になるが、午前中に眠くなることもある。 ●「バイバイ」「イヤイヤ」「チョウダイ」「アリガトウ」などの身振りを活発にする。 ●つかまり立ち、伝い歩きができるようになり、移動行動が活発になる。 ●指差しが盛んになる。 ●保育教諭のすることに興味関心を持ってまねたり、側で安心して一人で遊びだしたりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●乳児食から幼児食に移行する。 ●衣服の着脱に興味関心を持つ。 ●タイミングが合うとオマルで排泄することがある。 ●大人がしてくれた事を喜び、何度もしてほしがる。 ●歩行が始まり、自由に体を動かすことを喜び。 ●「マンマ」「プー」など一語文を話す。 ●物を投げたり、積み木を崩したりして喜び。 | <ul style="list-style-type: none"> ●こぼしながらもスプーンや手を使って自分で食べる。 ●尿意を言葉や動作で知らせようになる。 ●身の回りの簡単な事などを、自分でやってみようとする気持ちが出てきて保育教諭の介助を「イヤ」と、拒んだりする。(自我の芽生え) ●友達に関心を示し、側に行き触ったりおもちゃを取ったりするなどの行動が出てくる。 ●保育教諭の話しかけを喜んだり、自分から片言でしゃべったりすることを楽しむ。 ●歩行が安定し階段の上り下りなどができる。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●食欲や食事の好みに偏りが現れやすい時期なので、子どもの様子を見ながら無理なく幼児食に移行できるようにする。 ●指差しや身振り、声で自分の意思や欲求を盛んに伝えようとするので、その一つ一つに丁寧に応えながら相互のやり取りを楽しむ。 ●喃語や片言をやさしく受け止めながら発語を促す。 ●行動範囲が広がるので危険がないように環境を整える。 | <ul style="list-style-type: none"> ●表情やしぐさを読み取りながらトイレトレーニングを始める。 ●周囲の子どもにかかわりをもとうと引っ張ったり、たたいたりすることがあるので、仲立ちしながら友達へのかかわりが少しずつ持てるようにする。 ●人や物へのかかわりが積極的になるので、「やってみたいな」と興味関心を引くような楽しい遊びを工夫し、保育教諭も一緒に遊びを楽しむという姿勢を大切にする。 ●散歩に行ったり、身近な動植物など自然物に触れたりする機会を作る。 ●歩行の喜びを味わいながら滑る、登る、押す、屈む、のぞくなどの動きのある遊びが楽しめるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●こぼしながらもスプーンや手を使って食べ、時間がかかるが、みんなと一緒に食べる楽しさや自分で食べようとする気持ちを大切にしていける。 ●自分でやりたいと言う気持ちを大切に受け止め、わかりやすい言葉かけを工夫したり手助けしながら子どもの気持ちに寄り添う。 ●運動機能が発達し、動きが大胆になってくるので遊びの広がりを考えながらの安全配置や環境を整え、体を動かす遊びや探索が十分できるように見守っていく。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●大人の真似や探索行動、くり返し遊びの大切さ、応答と共感的なかかわり方について伝えていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの子どもの発達状態や家庭での食事の状況を考慮しながら、幼児食に無理なく移行できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●家庭、保育所の様子を伝え合いながら、食べる、眠る、排泄する、遊ぶなどのリズムを整えることが、心身共に安定した生活につながることを理解し合う。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●連絡帳や送迎時の連絡、懇談会などを通して家庭との連絡を密にし、相互のやりとりを通して子どもの育ちを共有し合えるようにしていく。 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●気温の変化で体調を崩しやすい時期なので、一人ひとりが健康に過ごせるようにする。 ●子どもの気持ちを共有し、安心感を持って過ごせるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●風邪や感染症が流行する時なので室内の温度や湿度の設定に留意する。 ●消毒や手洗いをこまめに行い予防に努める。 ●自分の思いを出し、受け止めてもらい保育教諭に見守られて安心して過ごせるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●運動機能が発達し動きも大胆になってくるので、安全に十分注意する。 ●引き続き感染症にも気を付けていく。 ●甘えを十分に受け止め、「いや」「自分で」という姿にも保育教諭が余裕を持って見守っていく。 ●できたこと、やろうとしたことを褒め自信と次への意欲を育てる。 |

(2) 1歳児 年間指導計画

| | |
|-------------|--|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●保健的（衛生面、室内外の温度、湿度）で安全な環境のもとで、身体の状態を観察し快適に生活できるようにする。 ●一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存欲求を満ちし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ●安心できる保育教諭との関係のもとで、食事、排泄、着脱などの活動を通して自分でしようとする気持ちを育む。 ●探索行動する中で、自然や身近なものに触れて遊んだりすることによって、外界に対する好奇心や興味関心を持てるようにする。 ●保育教諭の話しかけや、受け応えで発語が促され、生活や遊びの中で言葉を使うことを楽しむ。 ●安心できる保育教諭の見守りの中で、身の回りの大人や子どもに関心を持ちかかわろうとする。 |
|-------------|--|

| 年齢 | 1歳～1歳7ヶ月 |
|----------------------------------|---|
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ●手づかみや、時にはスプーンを持って食べようとする。 ●保育教諭と一緒に食事前後の挨拶をしぐさで表現する。 ●オムツがぬれていると、表情や態度で示すことがある。 ●着替えるとき、言葉かけに応じて手足を動かして着させてもらう。 ●午睡が1回になり、保育教諭についてもらい安心して眠る。 ●鼻汁、顔、手の汚れを嫌がらずに拭いてもらう。 ●這ったり、歩いたりして自由に動きまわる。探索活動をさかんにする。 ●いじる、つまむ、たたく、引っ張る等手や指を使った活動を十分ににする。 ●絵本に興味関心を持ったり、読んでもらったりする。 ●歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しむ。 ●してほしいことを身振りや表情で知らせ、せがむ。 ●一語文を話せる。知っているものを指差し「アーアー」等と言う。 ●好きな保育教諭がいることを確かめて遊ぶ。 ●描くことに興味関心を持ってなぐり描きを楽しむ。 |
| 保育教諭のかかわりの視点 (育てたい内容) | <ul style="list-style-type: none"> ●家庭との連携を密にしながら、個人差に応じた生活リズムで、睡眠、食事、排泄、遊び等が行われるようにする。 ●特定の保育教諭とのかかわりをもとに、一人ひとりの欲求に応え、愛情を込めて 応答的にかかわるようにする。甘えを十分に受けとめる。 ●自分でやりたいという気持ちを大切に、行動を見守る。 ●喃語や片言をやさしく受けとめ、表情豊かに応答しながら発語を促す。 ●自由に活動できる落ち着いた空間や時間を保障する。 ●手先、体を使って遊ぶことのできる素材を用意する。（水、砂、木の実などの自然物等） ●シール等で知らせ、自分のもの、自分の場所が決まっていることで、自他との区別がつき安心できるようにする。 ●子どもの興味関心を逃さず、好きな絵本や玩具を用意する。 ●保育教諭は子どもにいつ話しかけられても応じられるような位置にいる。 ●安定した歩行を目指し、様々な歩行運動を楽しませる。歩行の遅れている子を支援する。 |
| 期の配慮事項 | 1期～2期（4月～8月） |
| | <ul style="list-style-type: none"> ●新しい生活の場に慣れ、子どもたちが安心して過ごせるようにできるだけ同じ保育教諭がかかわれるようにする。 ●家庭的な雰囲気の中で生活できるように、生活の場を整える。 ●母子分離不安を受け止め、あせらず個人差に応じた園生活のリズムを整えていく。 ●戸外に出る時は、日照や気温に注意して帽子や服装に配慮する。 ●体調に合わせて無理をしないようにする。 ●夏の遊び（湯水遊び、プール、シャワー等）を十分楽しめるようにするが、転倒等安全面に留意する。 |
| 養護 | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの生活リズムに配慮し、園生活のリズムを整えていく。 ●安全面に気を付けながら、探索活動を楽しめる環境を整える。 ●水分補給、休息など、暑い時期の健康に気をつけながら過ごさせる。 ●自分の気持ちを受け止められることで安心して過ごせるようにする。 |

| | |
|-------------|--|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●保健的（衛生面、室内外の温度、湿度）で安全な環境のもとで、身体の状態を観察し快適に生活できるようにする。 ●一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存欲求を満ちし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ●安心できる保育教諭との関係のもとで、食事、排泄、着脱などの活動を通して自分でしようとする気持ちを育む。 ●探索行動する中で、自然や身近なものに触れて遊んだりすることによって、外界に対する好奇心や興味関心を持てるようにする。 ●保育教諭の話しかけや、受け応えで発語が促され、生活や遊びの中で言葉を使うことを楽しむ。 ●安心できる保育教諭の見守りの中で、身の回りの大人や子どもに関心を持ちかかわろうとする。 |
|-------------|--|

| | |
|----------------------------------|--|
| 年齢 | 1歳8ヶ月～2歳3ヶ月 |
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ●こぼしながらも、スプーンを使って食べようとする。 ●食事前後に手や口を拭いてもらったり、自分で拭こうとしたりする。 ●排泄したことや、尿意を動作や言葉で知らせようとする。 ●保育教諭の優しい言葉かけと支援で着脱に興味関心を持つ。 ●睡眠時間が徐々に安定してくる。 ●保育教諭と一緒に手を洗い、タオルで手を拭こうとする。 ●保育教諭に見守られ、外遊び、一人遊びを十分楽しむ。 ●登る、降りる、跳ぶ、またぐ等全身を使った遊びを楽しむ。 ●保育教諭と絵本を見ながら、簡単な繰り返しや模倣を楽しむ。 ●保育教諭と歌ったり、わらべうたや簡単な手遊びをしたりして遊ぶ。 ●言葉数が増え、二語文が出てくる。 ●自分の思いが通らないと、泣いたり、ひっくり返ったりする。 ●友達や身近な人への興味関心をもち一緒に過ごすことの喜びを共感する。 ●物の取り合いで相手を噛んだり、たたいたりして自分の思いを表し、通そうとする。 ●身の回りの簡単なことを自分でやりたがり、保育教諭の介助を拒んだりする。 ●腕全体を使って、円鉛筆（ぐるぐる丸）を描く。 |
| 保育教諭のかかわりの視点 (育てたい内容) | <ul style="list-style-type: none"> ●自分でしようとする意欲を大切に、さりげなく援助し、できたときは喜びを共有する。 ●動きが大胆になってくるので、遊具の配置等安全な環境を整える。細かい玩具は保育教諭が管理し、誤飲や不安定な足どりによる転倒等を避けるようにする。 ●探索行動を保障しながらも、生活リズムの節目を言葉と大人の動作、行動で知らせ援助していく。 ●オムツがとれる時期なので、興味関心の出ている子どもはトイレに誘う。 ●友達と同じことをやりたがるので、玩具の数や種類をそろえ、一人でじっくり遊び込める環境を整えていく。また噛みつきやひっかきなど見られた時は、状況を良く見て双方の気持ちを十分受け止めていく。 ●感覚的な遊び（見る、触れる、いじる、丸める、重ねる、並べる等）を通して、さまざまな発見、驚き、喜びが体験できるようにする。 ●散歩では自然に触れながら子どもの興味関心に共感し、楽しみながら歩く。 ●子どものしぐさで表現した気持ちを受けとめ、子どもの要求をよく聞き取り、言葉による交流を豊かにして、言葉を増やしていく。 ●生活面では、同じ保育教諭がかかわり、情緒安定をはかる。遊びの面でも保育教諭と子どもが安定した関係のなかで、探索活動やごっこ遊びができるように、遊びの種類や人数により臨機応変に動くようにする。 |
| 期の配慮事項 | 3期（9月～12月） |
| 養護 | <ul style="list-style-type: none"> ●衛生面、安全面に留意すると共に、行動範囲が広がるので、活動の状態、子ども相互のかかわり等に十分注意を払う。 ●戸外遊びや散歩等を通し、秋から冬にかけての自然の中での遊びを大切にする。 |
| 養護 | <ul style="list-style-type: none"> ●季節の変わり目は、体調を崩しやすいので、個々の子どもの体調、室内外の温度、湿度に留意し子どもの状態に合わせて衣服の調節をする。 ●十分な運動を楽しめるよう、遊具の安全や環境の確認をする。 ●自分の思いが出てきているので、一人ひとりの子どもの気持ちを受け止めて安心して過ごさせる。 |

| | |
|-------------|--|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●保健的（衛生面、室内外の温度、湿度）で安全な環境のもとで、身体の状態を観察し、快適に生活できるようにする。 ●一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存欲求を満ちし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ●安心してできる保育教諭との関係のもとで、食事、排泄、着脱などの活動を通して自分でしようとする気持ちを育む。 ●探索行動する中で、自然や身近なものに触れて遊んだりすることによって、外界に対する好奇心や興味関心を持てるようにする。 ●保育教諭の話しかけや、受け応えで発語が促され、生活や遊びの中で言葉を使うことを楽しむ。 ●安心してできる保育教諭の見守りの中で、身の回りの大人や子どもに関心を持ち、かかわろうとする。 |
|-------------|--|

| 年齢 | 2歳4ヶ月～2歳11ヶ月 |
|----------------------------------|---|
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ●スプーン、フォークの使い方が次第に上手になる。 ●楽しい雰囲気の中で、自分で食事をしようとする。 ●失敗もあるが、自分から、あるいは保育教諭の言葉かけにより、トイレで排泄する。 ●簡単な衣服は一人で脱ぐことができるようになり、支援されながら着脱できる。 ●落ち着いた雰囲気の中で、安定して眠れるようになる。 ●手や足が汚れたことがわかり、自分で拭いたり保育教諭に洗ってもらったりする。 ●好きなおもちゃや遊具、自然物とかかわり十分に遊ぶ。 ●走る、両足とび、押す、引っぱる等の運動遊び、手指を使う遊びを楽しむ。 ●絵本や紙芝居を楽しんで見たり、聞いたりし、繰り返しの言葉や模倣を楽しむ。 ●保育教諭や友達と一緒に、歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。 ●生活に必要な簡単な言葉を理解し、さまざまなことに興味関心を示し、言葉で表す。 ●友達への関心が芽生え、ぶつかり合いもあるが、遊びに誘うなどしてかかわりを持つ。 ●「自分で」と言ってやりたがるが、まだできないことが多い。 ●なぐり描きで円形が描けるようになる。 |
| 保育教諭のかかわりの視点 (育てたい内容) | <ul style="list-style-type: none"> ●個人差・発達差を考慮し、見通しを持ったはたらきかけをする。個々の子の心情（甘え、自立）を受けとめ、生活面では、できないことを見極めて、必要な時だけ手を貸すようにする。 ●子どもの行動範囲が広がることで、いたずらをしたり、危険が予測できないために、思わぬことを始めたりするので、十分注意する。 ●「自分で」という気持ちを認め、ゆっくと待ち、できない事はさりげなく介助していく。 ●子どもと一緒にごっこ遊びを楽しむ中で、みだつもりの世界を広げる。 ●会話や子どもの発想を大事にする。保育教諭が仲立ちとなり、友達とのかかわりを深める。 ●子どもの要求や甘えは受けとめるが、わがままには応じられないことを、きちんと話す。 ●自分の気持ちをうまく言葉で表現できないことや、思い通りにいかないことで、大人が困るようなことをすることも、発育・発達過程であると理解して対応する。 ●一人ひとりの興味関心を捉え、それぞれに対応する。子どもの遊びの状況によって、担任相互の分担、動きの工夫をする。 |
| 期の配慮事項 | 4期（1月～3月） |
| | <ul style="list-style-type: none"> ●進級に向けて、新しい環境に慣れるよう、準備していく。 ●風邪が流行する時期なので予防に努め、温度、湿度、換気等に留意する。 ●活発に身体を動かせるよう、遊具の配置等を工夫し、室内を広く使えるようにする。 |
| 養護 | <ul style="list-style-type: none"> ●行動範囲が広がり、動きが活発になっているので室内外を十分点検し、安全に過ごせるようにする。 ●一人ひとりの健康状態を把握し、健康で安全に過ごせるようにする。 ●ゆったりとかかわりながら、言葉や思いを汲み取り、安心して自分の思いを表現できるようにする。 |

(3) 2歳児 年間指導計画

| | |
|------|---|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●保健的（衛生面、室内外の温度、湿度）で安全な環境のもとで、身体の状態を観察し、快適に生活できるようにする。 ●一人ひとりの生理的欲求を十分満たし、生活のリズムを整える。 ●保育教諭と一緒に全身を使った遊びや、手、指先を使った遊びを楽しむ。 ●保育教諭とのかかわりのもとで安心して、自分の思いや要求を表し、情緒の安定を図る。 ●自分の思いや要求を言葉で表現できるようになり、いろいろな経験を通して言葉が豊かになる。 ●安心して保育教諭との関係のもとで、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ●生活や遊びのなかで、自然物や身近なものに触れ、探索意欲を十分満たし興味関心を広げる。 ●保育教諭を仲立ちとして、友達と一緒に遊ぶ楽しさを知る。 ●保育教諭を仲立ちとして、生活や遊びのなかで言葉のやりとりやごっこ遊び（みたてつもり）を楽しむ。 |
|------|---|

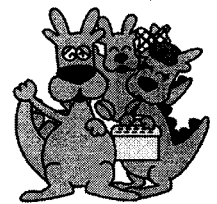
| 期 | 1期～2期（4月～8月） |
|--|--|
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ●日常生活の中で「イヤ」「自分で」などの自己主張をするが、自分の欲求が通らなると泣いたり怒ったりして感情が揺れ動く。 ●自分の物と友達のものとの区別が分かり、簡単な身の回りのことを自分でやりたがるようになる。 ●身近な大人の話す日常生活の言葉が理解できる。 ●保育教諭や友達と一緒に遊んだり、一人遊びをしたりする。 |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ●新しい環境（保育所、保育教諭、友達）に慣れる。 ●安定した生活の中で食事、排泄、睡眠等のリズムを整える。 ●保育教諭に不安や欲求を受け止められながら、自分の好きなことを見つけて遊ぶ。 ●保育教諭と一緒に身近ないろいろなものに、触れて遊び、興味関心を広げる。 ●保育教諭に援助され、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 |
| 経験する内容 (健康) (人間関係) (言葉) (表現) (環境) | <ul style="list-style-type: none"> ●スプーンやフォークを使いこぼしながらも自分で食べようとする。 ●尿意や便意をしくさや言葉で知らせるが、失敗することもある。 ●保育教諭の援助を受けながら着脱しようとする。 ●不安を見せながらも、徐々に眠れるようになる。 ●落ち着いた環境の中で安心して眠る。 ●言葉がけにより、排泄後や食事前に手を洗う。 ●好きな遊具の使い方を知り、戸外で体を動かして遊ぶ。 ●保育教諭や友達の名前を覚え、一緒に遊んだり一人遊びをしたりする。 ●保育教諭と一緒に身近な素材や砂、水に触れて遊ぶ。 ●坂道、でこぼこ道等全身のバランスを保ちながら歩けるようになる。 ●単語または二語文で自分の要求を伝える。 ●簡単な手遊びや歌を保育教諭と一緒に歌ったり、リズムに合わせてたりして体を動かして遊ぶ。 ●描くことに興味関心を持ち、腕全体を使ったぐるぐる丸をたくさん書いて遊ぶ。 |
| 保育教諭の配慮と環境構成 | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの子どもの健康状態や発育、発達状態を把握し、異常のある場合は適切に対応する。 ●安心して過ごせるよう、自己主張や甘えなどを受け止め、子どもとの情緒的な結びつきを深め、信頼関係を作っていく。 ●家庭との連携を取り合い、個人差に配慮しながら食事、排泄、午睡が安心してできるように、ゆったりとした生活の流れを心がける。 ●月齢差よりも個人差がはっきりしてくるので、個人レベルで発達を見ていく。 ●おしゃべりが楽しんでできるように、保育教諭がゆったり接していく。 ●ゆったりした雰囲気や清潔や安全に気を配る。 ●自分の持ち物や場所がわかるように、一人ひとりのシールを貼っておくことで安心感を持ち自分で始末することへつなげていく。 ●自分の好きな場所で自由に遊べる環境を作る。 ●夏を快適に過ごせるように風通しや室温に配慮し、環境の工夫にも心がける。 ●水遊びが大好きな年令なので、思う存分楽しめるように、遊びの工夫や玩具の用意をする。 ●疲れやすい時期なので、個々の健康状態に気を配り、水分補給や休息と活動のバランスに注意する。 |
| 養護 | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの発達状態、生活リズムを把握し、快適に生活できるようにする。 ●十分な水分補給と休息をとり、健康に過ごさせる。 ●一人ひとりの気持ちを受け止め、丁寧にかかわり、甘えや不安、要求を安心して表現できるようにする。 |

| | |
|------|--|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●保健的（衛生面、室内外の温度、湿度）で安全な環境のもとで、身体の状態を観察し、快適に生活できるようにする。 ●一人ひとりの生理的欲求を十分満たし、生活のリズムを整える。 ●保育教諭と一緒に全身を使った遊びや、手、指先を使った遊びを楽しむ。 ●保育教諭とのかかわりのもとで安心して、自分の思いや要求を表し情緒の安定を図る。 ●自分の思いや要求を言葉で表現できるようになり、いろいろな経験を通して言葉が豊かになる。 ●安心できる保育教諭との関係のもとで、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ●生活や遊びのなかで、自然物や身近なものに触れ、探索意欲を十分満たし興味や関心を広げる。 ●保育教諭を仲立ちとして、友達と一緒に遊ぶ楽しさを知る。 ●保育教諭を仲立ちとして、生活や遊びのなかで言葉のやりとりやごっこ遊び（みだてつもり）を楽しむ。 |
|------|--|

| 期 | 3期（9月～12月） |
|--|--|
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ●食事、排泄の習慣や衣服の着脱、簡単な始末など自分でできることが増えて、一日の流れを覚えていく。 ●他児への関心、関わりが増すことから、物の取り合いによる喧嘩も多く見られるが、保育教諭や友達と一緒に遊びたがるようになる。 ●言葉の使い方を覚え、自分の要求や訴えを言葉で言うようになってくる。 ●目と指先が協応するようになり、いろいろな道具を使うようになる。 ●粘土などを使うようになる。 |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ●食事、排泄の習慣や衣服の脱着、簡単な始末など、自分でできることが増えて、一日の流れを覚えていく。 ●保育教諭や友達と一緒に、戸外や自然の中で十分体を動かし、遊ぶ楽しさを味わう。 |
| 経験する内容 (健康) (人間関係) (言葉) (表現) (環境) | <ul style="list-style-type: none"> ●嫌いなものでも言葉がけにより少しは食べようとする。 ●自分から尿意を知らせたり、保育教諭の言葉がけでトイレに行き排泄したりする。 ●前後、裏表を間違えたりするが自分で着脱しようとする。 ●落ち着いた環境のなかで安心して眠れるようになる。 ●自分の持ち物の置き場所がわかり、言葉がけにより、しまおうとする。 ●いろいろな遊具を使った遊びや全身運動を楽しむ。 ●気の合う友達と一緒にごっこ遊び、つもり遊びを楽しむ。 ●砂、水、泥等の感触を楽しみおもいっきり遊ぶ。 ●粘土や小麦粉粘土を丸める、ちぎる、伸ばすの感触を楽しむ。 ●坂道や起伏にとんだ道を安定した足どりで歩けるようになり散歩を楽しむ。 ●絵本や紙芝居などイメージを持って楽しんで見たり聞いたりする。 ●言葉の数が増え話すことが多くなる。 ●簡単な曲や体操に合わせて、歌ったり踊ったりする。 ●閉じた丸が描けるようになり、描いた丸に命名して描く事を楽しむ。 ●はさみに興味関心を持ち、1回切りができるようになる。 |
| 保育教諭の配慮と環境構成 | <ul style="list-style-type: none"> ●生活面は、自分でやりたがるようになるが、十分にできないので、保育教諭が介助しながら「一人でできた」という満足感を与え、自分でやろうとする意欲を育てる。 ●他児との喧嘩も、ある程度は必要な経験として見守りながら、徐々に相手の気持ちにも気付けるようわかりやすく仲立ちをして、かかわり方を知らせていく。 ●自己主張やかんしゃくを起こして保育教諭をてこずらすことが多いが、感情的に対処せず忍耐強く相手をする。 ●自然に触れる機会を多く持ち、色々な物に興味関心を持たせ、自由に遊ばせる。 ●空間と玩具、遊具等を整え、遊びの種類によってコーナーの設定などの工夫をする。 ●活弁に体を動かせるように運動用具の使い方や組み合わせ方の工夫をし、伸び伸びと遊べるようにする。 |
| 養護 | <ul style="list-style-type: none"> ●室内外の気温差や湿度、換気に注意する。 ●手洗い、うがいをを行い感染症を予防する。 ●保育教諭との信頼関係の中で子どもを受け止めて、心地よさと安心感が与えられるようにする。 |

| | |
|-------------|---|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●保健的（衛生面、室内外の温度、湿度）で安全な環境のもとで、身体の状態を観察し、快適に生活できるようにする。 ●一人ひとりの生理的欲求を十分満たし、生活のリズムを整える。 ●保育教諭と一緒に全身を使った遊びや、手、指先を使った遊びを楽しむ。 ●保育教諭とのかかわりのもとで安心して、自分の思いや要求を表し情緒の安定を図る。 ●自分の思いや要求を言葉で表現できるようになり、いろいろな経験を通して言葉が豊かになる。 ●安心して保育教諭との関係のもと、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ●生活や遊びのなかで、自然物や身近なものに触れ、探索意欲を十分満たし興味関心を広げる。 ●保育教諭を仲立ちとして、友達と一緒に遊ぶ楽しさを知る。 ●保育教諭を仲立ちとして、生活や遊びのなかで言葉のやりとりやごっこ遊び（みだてつもり）を楽しむ。 |
|-------------|---|

| 期 | 4期（1月～3月） |
|---|---|
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ●生活に必要な習慣が次第に身に付く。 ●運動機能が発達し、高い所へ上がったたり、飛び降りたり、動きが活発になり手や指先を使った遊びも喜ぶようになる。 ●生活に必要な言葉が大体わかり、したいことしてほしいことを言葉で言うなど、自我がはっきりしてくる。 ●遊びの場での自己主張のぶつかり合いも激しくなるが、気の合う友達同士で役割のあるごっこ遊びや、簡単なルールのある遊びを楽しむ。 ●友達のことが気になり、世話をしたがるようになる。 |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ●簡単な身の回りのことが自分でできる喜びを味わう。 ●保育教諭が仲立ちとなり、ごっこ遊びや簡単な集団遊び等、友達とのかかわりを楽しみ、一緒に遊ぶ喜びを感じる。 |
| 経験する内容 (健康) (人間関係) (言葉) (表現) (環境) | <ul style="list-style-type: none"> ●給食に慣れ、楽しい雰囲気の中で食事をする。 ●食べ物の種類によりスプーン、フォーク、箸等を使って食べる。 ●排泄の間隔が長くなり失敗がほとんどなくなる。 ●自分でトイレに行き、パンツやズボンを膝まで下げ排泄する。 ●簡単な衣服の着脱を一人できるようにする。 ●鼻が出たことに気付き、自分で拭こうとする。 ●保育教諭や友達と一緒に簡単なルールのある遊びをする。 ●自然に触れながら保育教諭と一緒に、散歩を楽しみ、歩ける距離が伸びる。 ●経験したことが、大人の問いかけで話せるようになる。 ●生活や遊びのなかで、数や量に関心を持ち、多い少ないがわかる。 ●二語文から多語文を、豊かに話せるようになる。 ●はさみの使い方がわかり、直線の連続切りができるようになる。 ●絵を伸び伸びと描く事を楽しむ。 |
| 保育教諭の配慮と環境構成 | <ul style="list-style-type: none"> ●生活面では、後退する姿も見られることもあるが、子どもの状態を見ながら接し、自立に向けて自分でできる喜びを持たせていく。 ●子どものやってみようとする気持ちを大切に、安全な環境の中で自由に活動させるが、必要ときに、介助できる位置で子どもを見守る。 ●保育教諭が中心になり、子ども同士がかかわって遊べるような活動や場を多くしていく。 ●生活する中で順番や交代などの約束を知らせていく。 ●手や指を使う遊びができるように、物や形、色に興味関心を持ち、楽しめる素材を工夫し用意する。（ひもとおし、積木、パズルなど） ●3歳児との交流を持ちながら生活の場を広げ、進級に喜びの気持ちを持つようにしていく。 |
| 養護 | <ul style="list-style-type: none"> ●寒暖の差に応じ室温、湿度に留意し、快適に過ごせるようにする。 ●体調の把握を十分行い、丁寧な対応に心がける。 ●一人ひとりの子どもの気持ちを受容していくなかで子どもが安心して気持ちを表せるようにする。 |



(4) 3歳児 年間指導計画

| | |
|------|---|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●保健的（施設内の砂場・足洗い場の衛生、施設の採光、換気、保温、衛生）で安全な環境をつくり、一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図りながら生活できるようにする。 ●食事、排泄、睡眠、衣服の着脱など、生活に必要な基本的な習慣を身に付ける。 ●身体を動かすことを楽しみながら基礎的な運動能力を育てる。（ジャンプする、バランスがとれる、走る、歩く、くぐる、登る、手先を使うなど全身を使う遊び） ●身近な人とかわり、友達と遊ぶことを楽しむ。（戸外遊び、ごっこ遊びなど） ●身近にある物や身の回りで起こる様々な出来事に興味関心を持ち、遊ぶ中で感性を豊かにする。 ●自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、遊びや絵本、大人との会話の中で言葉を豊かにする。 |
|------|---|

| 期 | 1期（4月～5月） |
|--|---|
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ●新しい環境に期待し、元気に生活する子どもがいる反面、戸惑いや不安を持つ子も見られる。 ●新しい生活の流れが徐々にわかり、保育教諭に支えられ、身の回りのことを自分なりにしようとする。 ●戸外で体を動かす遊びを好むと共に、友達に興味関心を持ち、同じ遊びをしようとする。 |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ●保育教諭の手助けを受けながら、身の回りのことができるようになってくる。 ●新しい環境のなかで、保育所生活の流れを知り、保育教諭や友達と好きな遊びを楽しむ。 |
| 経験する内容 （健康） （人間関係） （言葉） （表現） （環境） | <ul style="list-style-type: none"> ●保育教諭の手助けにより、食事、排泄、手洗い、午睡などの基本的な生活の仕方を知り、自分でしようとする。 ●安全な遊具の使い方を知り、戸外で身体を十分動かして遊ぶ。 ●所持品の整理する場所がわかり、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ●クラスの担任や友達に親しみをもち、気の合う友達と好きな遊びをする。 ●身近な小動物や草花を見たり、触れたりして親しむ。（～2期） ●水、砂、粘土等の感触を楽しむ。 ●あいさつや返事等、生活や遊びに必要な言葉を使う。 ●絵本や紙芝居や、パネルシアター等を見て楽しむ。 ●知っている歌を歌ったり、曲に合わせて体を動かしたりして楽しむ。（～2期） |
| 保育教諭の配慮と環境構成 | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの生活の違いに配慮するとともに、子どもの気持ちや行動を適切に把握し、サインを読み取りながら、信頼関係を築くようにする。 ●家庭的な雰囲気づくりに努め、一人ひとりの情緒の安定を図り、好きな遊びへと誘い、園生活を楽しめるようにする。 ●自分の場所という安定感を持てるように、靴箱、ロッカー等に印を付け、安心して持ち物の整理ができるようにする。 ●食事や排泄の仕方を繰り返しながら、正しい仕方が身に付くようにする。 ●遊具や砂場を整備し、保育教諭が見守りながら安全に使えるようにする。 ●保護者が安心するように園の様子を伝えたり、家庭の様子を聞いたりする機会を多く持ち、子育ての悩みなどに共感を示して信頼関係を築いていく。 |
| 養護 | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの健康状態や生活リズムを把握し、徐々に園生活に慣れるように個別に対応する。 ●一人ひとりの子どもの気持ちを受け止め、保育教諭との信頼関係を築き安心して過ごせるようにする。 |

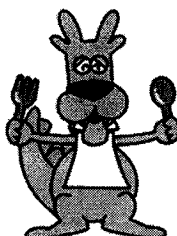
| | |
|------|---|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●保健的（施設内の砂場・足洗い場の衛生、施設の採光、換気、保温、衛生）で安全な環境をつくり、一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図りながら生活できるようにする。 ●食事、排泄、睡眠、衣服の着脱など、生活に必要な基本的な習慣を身に付ける。 ●身体を動かすことを楽しみながら基礎的な運動能力を育てる。（ジャンプする、バランスがとれる、走る、歩く、くぐる、登る、手先を使うなど全身を使う遊び） ●身近な人とかわり、友達と遊ぶことを楽しむ。（戸外遊び、ごっこ遊びなど） ●身近にある物や身の回りで起こる様々な出来事に興味関心を持ち、遊ぶ中で感性を豊かにする。 ●自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、遊びや絵本、大人との会話の中で言葉を豊かにする。 |
|------|---|

| 期 | 2期（6月～8月） |
|--|--|
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ●園生活の仕方が次第にわかり、身の回りのことを自分でしようとする気持ちが出てくる。 ●友達とふれあいながら、好きな遊びを楽しむ反面、自己主張が強くなり、友達とぶつかることが多くなる。 ●様々なことに好奇心を持ち、生活や遊びの中で触れたり、試したりする。 |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ●保育教諭に見守られながら、身の回りのことを自分でしようとする。 ●遊びや生活には、約束や決まりがあることを知り、守ろうとする。 ●保育教諭や友達と一緒に、夏の遊びを楽しむ。 |
| 経験する内容 (健康) (人間関係) (言葉) (表現) (環境) | <ul style="list-style-type: none"> ●食事、排泄、着脱等、自分でできることは一人でしようとする。 ●走る、跳ぶ、転がることや、固定遊具等の遊びで身体を思いっきり動かして遊ぶ。 ●保育教諭の楽しそうな誘いかけをきっかけに、いろいろな遊びに加わったり、気の合う友達との遊びを楽しんだりする。 ●物や場所の取り合いなど、友達とのトラブルを経験し、友達の気持ちや存在を知る。 ●水、砂、泥等自然の素材に触れ、夏の遊びを思いっきり楽しむ。 ●したいこと、してほしいことを保育教諭に動作や言葉で伝えようとする。 ●遊びの中で、「かして」「いれて」「ありがとう」などの言葉を覚えて使う。 ●絵本や紙芝居などの簡単な内容がわかり、繰り返し読んでもらうことを楽しむ。 ●身近な素材や用具を使って、好きなように描いたり作ったりして遊ぶ。 |
| 保育教諭の配慮と環境構成 | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりのペースを大切に、自分でしようとする気持ちを受け止める。 ●友達への興味関心が徐々に広がるが、トラブルも多くなるので保育教諭が仲立ちとなり、双方の言い分を良く聞くようにする。 ●衣服の着替えや身体の清潔、片付け等については、自分から進んでしたくなるように、置き場や手順などに配慮する。 ●水遊びやプールの整備をし、水遊びの道具や玩具などを準備する。 ●園生活のなかで、身の回りのことを自分でしている姿を伝え家庭でも時間的余裕を持って取り組ませてもらったり、時期的に身体の清潔や、着脱しやすい衣服の準備など留意してもらったりする。 |
| 養護 | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの健康状態を把握しながら、活動と休息のバランスに配慮し、水分補給をさせるなど、適切な対応をする。 ●保育教諭との信頼関係のもと、自分の気持ちや考えを安心して表すことができるようにする。 |

| | |
|------|---|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●保健的（施設内の砂場・足洗い場の衛生、施設の採光、換気、保温、衛生）で安全な環境をつくり、一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図りながら生活できるようにする。 ●食事、排泄、睡眠、衣服の着脱など、生活に必要な基本的な習慣を身に付ける。 ●身体を動かすことを楽しみながら基礎的な運動能力を育てる。（ジャンプする、バランスがとれる、走る、歩く、くぐる、登る、手先を使うなど全身を使う遊び） ●身近な人とかわり、友達と遊ぶことを楽しむ。（戸外遊び、ごっこ遊びなど） ●身近にある物や身の回りで起こる様々な出来事に興味関心を持ち、遊ぶ中で感性を豊かにする。 ●自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、遊びや絵本、大人との会話の中で言葉を豊かにする。 |
|------|---|

| 期 | 3期（9月～12月） |
|--|--|
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ●生活習慣の基本的な部分を、自分でしようとするが、思うようにできないと支援を求めてくる。 ●いろいろな運動遊びを楽しむと共に、「一緒」「みんな」という、集団を意味する言葉が理解できるようになる。 ●友達と一緒に遊ぶ楽しさがわかり、仲間意識も芽生え、ごっこや鬼遊びなどを楽しむ。 ●自分のイメージを言葉や行動、造形活動などで思い思いに表現するようになる。 |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ●生活の仕方が大体わかり、簡単なことは自分でしようとする。 ●外遊びを十分するなど、遊びのなかで体を動かす楽しさを味わう。 |
| 経験する内容 (健康) (人間関係) (言葉) (表現) (環境) | <ul style="list-style-type: none"> ●手洗い、うがい、着脱、排泄、食事など順序良くすることを知り、自分でしようとする。 ●様々な遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむ。 ●簡単な約束や決まりを守り、友達と一緒に遊ぶ事を楽しむ。 ●木の葉や木の実、草花を集め、それを使って遊ぶなかで自然物や、自然の変化に興味関心を持つ。 ●自然物や身近な物の大小、色、形、量などに興味関心を持ち、違いに気付く。 ●遊びやおしゃべりの中で、やり取りを楽しみながら生活に必要な言葉を知っていく。 ●自分の感じたことや、してほしいこと、困っていることなど保育教諭に言葉で伝えようとする。 ●絵本や紙芝居の内容がわかり、イメージを持って楽しんだり、登場人物になってごっこ遊びをしたりする。（～4期） |
| 保育教諭の配慮と環境構成 | <ul style="list-style-type: none"> ●何かを始めると、自分で最後までやり遂げようとする時期なので、でき上がるのを見守るようにし、その努力を認めていく。 ●できない場合は、様子を見て手を貸し、「できた!」と、満足感を味わえるようにする。 ●運動会を通して、異年齢の活動に興味関心を持つようになるので、ゲームをまねたり、一緒に遊ぶことが楽しいと感じられたりするようになる。 ●園外の色々な場所で、自然に触れて、楽しめるようにする。 ●運動会などの保護者参加の行事を通して、自分の子だけ見るのではなく、3才児の成長を理解してもらうようにする。 |
| 養護 | <ul style="list-style-type: none"> ●気温の差や子どもの体調に気を付けながら、健康に生活できるようにする。 ●子どもの気持ちを温かく受け止め、個人差に配慮しながら、子どもが安心して遊びや生活ができるようにする。 |

| | |
|-------------|--|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●保健的（施設内の砂場・足洗い場の衛生、施設の採光、換気、保温、衛生）で安全な環境をつくり、一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図りながら生活できるようにする。 ●食事、排泄、睡眠、衣服の着脱など、生活に必要な基本的な習慣を身に付ける。 ●身体を動かすことを楽しみながら基礎的な運動能力を育てる。（ジャンプする、バランスがとれる、走る、歩く、くぐる、登る、手先を使うなど全身を使う遊び） ●身近な人とかかわり、友達と遊ぶことを楽しむ。（戸外遊び、ごっこ遊びなど） ●身近にある物や身の回りで起こる様々な出来事に興味関心を持ち、遊ぶ中で感性を豊かにする。 ●自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、遊びや絵本、大人との会話の中で言葉を豊かにする。 |
|-------------|--|

| 期 | 4期（1月～3月） |
|--|--|
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ●園の生活の仕方に慣れ、基本的な生活習慣も身に付き、自分でできることは自分なりにやろうとする。 ●友達や保育教諭の手伝いを喜ぶようになる。 ●友達同士のつながりが深まり、遊びが持続するようになる。 ●経験したこと想像したことなどを、自分なりの言葉で話すようになり、言葉を使つての表現の幅が広がってくる。 |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ●基本的な生活習慣が身につく、自信を持って行動できるようになる。 ●友達と色々な遊びを楽しみ、進級することに期待を持つ。 |
| 経験する内容 (健康) (人間関係) (言葉) (表現) (環境) | <ul style="list-style-type: none"> ●生活の流れや、物や場所の安全な使い方がわかり、自分から気を付けて遊ぼうとする。 ●全身を使った遊びを十分にし、寒くても元気よく遊ぶ。 ●保育教諭の手伝いを喜んだり、困っている友達を慰めたり手助けをしようとする。 ●4歳児とのかかわりを喜び、進級を心待ちにする。 ●雪、霜柱、氷などに触れ、驚いたり、不思議さに気付いたりする。 ●伝統的な正月の遊びを楽しむ。 ●公共物や、共有の物を大切に扱おうとする気持ちを持つ。 ●悲しいこと、嬉しいこと、考えたことなどを言葉に出して表現する。 ●好きな絵本や童話などの大筋がわかり、聞くことを楽しむ。 ●描いたものや作った物を、保育教諭と一緒に飾ったり使って遊んだりする。 |
| 保育教諭の配慮と環境構成 | <ul style="list-style-type: none"> ●様々な遊びが発展し、より楽しくなるように、材料や道具の準備や配置、遊びのヒント、かかわり方を工夫していく。 ●4歳児と一緒に遊べる環境を用意し、進級への期待を持たせるようにしていく。 ●家庭でも3歳児なりに、役割を持って手伝うことの大切さを伝える。 ●自己主張や自立心が強くなるが、まだ甘えたい気持ちもあることを理解し、温かく受け止めてもらうように保護者に伝えていく。 <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">  </div> |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ●寒暖の差に応じて、衣服の調節を促したり、一人ひとりの健康状態を把握したりしながら、快適に過ごせるようにする。 ●「自分です」「できた」という気持ちを大切に受け止め、満足感、達成感を味わえるようにする。 |

(5) 4 歳児 年間指導計画

| | |
|--|---|
| <p>年間目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●社会生活に必要な基本的な生活習慣や自主、協調の態度を身に付ける。 ●友達との園生活を楽しみいろいろな遊びを活発に行う。 ●身近な自然や事象に興味関心を持ち、知的好奇心や探究心を高める。(豊かな感性) |
| <p>期</p> | <p>1 期 (4 月～5 月)</p> |
| <p>子どもの姿</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●進級や入所・園に期待を抱いていたり、不安な気持ちを持っていたりすることもある。 ●保育教諭とのかかわりの中で、安心感を持ち、やりたい遊びを見つけ遊ぼうとする。 ●園生活の過ごし方がわかり、保育教諭の言葉がけにより、身の回りのことをしようとする。 ●異年齢とのかかわりに興味関心を持つが、どうすればよいのか戸惑うこともある。 |
| <p>ねらい</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●新しい生活に慣れ、自分でできる身の回りのことは、自分でする。 ●保育教諭や友達に親しみを持ち、安心感を持って生活を送る。 ●好きな遊びを見つけ、友達や保育教諭と親しんで遊ぶ。 |
| <p>経験する内容 (健康) (人間関係) (言葉) (表現) (環境)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●気の合う友達と、戸外で体を動かして十分に遊ぶ。 ●生活の仕方がわかり、できることは自分でしようとする。 ●遊具や用具の遊び方、使い方を知り、安全に使う。 ●保育教諭や友達に親しみを持ち、一緒に好きな遊びをする。 ●異年齢の友達と一緒に生活をし、親しみを持つ。 ●春の自然に親しむ。 ●挨拶や返事など、生活や遊びに必要な言葉を使う。 ●自分からしたいこと、してほしいこと、困ったことなどを言う。 ●絵本、紙芝居を見たり、聞いたりすることを楽しむ。 ●身近な素材に親しみ、かいたり、つくったりすることを楽しむ。 ●歌を歌ったり、手遊びなどをしたりすることを楽しむ。 |
| <p>保育教諭の配慮と環境構成</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●園が心地よく楽しい場所であると感じられるように、家庭での遊びと関連のある遊びができるように遊具等の場を設定する。 ●遊具は子どもの人数などにより調節し、片付けやすい量を準備したり、配置したりする。 ●一人ひとりの子どもと信頼関係を築きながら、生活が楽しいものとなるようにする。 ●保育教諭も積極的に遊びに加わり、遊びの楽しさを味わったり、遊具や用具の安全な使い方を知らせたりする。 ●一人ひとりの遊びの様子を把握し、個人差を配慮しながら声掛けや手助けを行うようにする。 ●持ち物の始末や生活の流れを繰り返し知らせていき、身に付くようにする。 |
| <p>養護</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの健康状態や生活リズム等を把握し、無理のないように生活の仕方を知らせていく。 ●一人ひとりの気持ちを受け止め、共感しながら、子どもとの信頼関係を築いていく。 |

| | |
|------|--|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会生活に必要な基本的な生活習慣や自主、協調の態度を身に付ける。 ●友達との園生活を楽しみいろいろな遊びを活発に行う。 ●身近な自然や事象に興味関心を持ち、知的好奇心や探究心を高める。(豊かな感性) |
|------|--|

| 期 | 2期(6月~8月) |
|--|---|
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ●様々な活動への興味関心が広がり、自分なりの動きが出てきたり、体を十分に動かしたりするようになる。 ●周囲の友達の遊びや行動が気になりはじめ、同じことをして楽しんだり、思いが通じずトラブルになったりする。 ●異年齢児とのかかわりの中で、一緒に遊ぼうとする姿が見られる。 |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの子どもが安心して自分の思いを表しながら、生活できるようになる。 ●水や砂、泥などの夏の遊びを通して、解放感を味わう。 ●好きな遊びを見つけて、友だちとかかわって遊ぶことを楽しむ。 |
| 経験する内容 (健康) (人間関係) (言葉) (表現) (環境) | <ul style="list-style-type: none"> ●身の回りのことなど、できることは自分でする。 ●戸外遊びや水遊びなどで思い切り体を動かして遊ぶ。 ●友達と生活する中で、きまりの大切さを理解して行動する。 ●異年齢児の友達に親しみをもち、一緒に遊ぶ。 ●友達と同じものを持ったり、同じ動きをしたりして、ごっこ遊びをする中で、つながりを感じていく。 ●水、土、砂、泥、絵の具などに触れ、夏ならではの遊びを十分に楽しむ。 ●気付いたこと、不思議に思ったことを保育教諭や友達に話す。 ●友達と一緒に歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりして楽しむ。 ●遊びに使うものを作ることを楽しむ。 ●身近な生活経験をごっこ遊びに取り入れ遊ぶ楽しさを味わう。 |
| 保育教諭の配慮と環境構成 | <ul style="list-style-type: none"> ●のびのびと表現して遊ぶことができるように、いろいろな素材を準備する。 ●経験の幅を広げていけるように、地域の公園や散歩経路を把握する。 ●一人ひとりの子どもの平常の健康状態を把握し、異常に気付いた時は適切な対応をする。 ●子どもと一緒に遊ぶ中で、子ども同士のかかわりを広げる。 ●砂、泥、水等に触れ、友達と一緒に力を合わせて受け止める中で、相手の思いも伝えるように配慮する。 ●持ち物の始末や生活の流れを繰り返し知らせていき、身に付くようにする。 |
| 養護 | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの平常時の健康状態を把握し、食事、休息、水分の補給を十分に取る。 ●一人ひとりの子どもを理解し、その気持ちを受け止め、子どもが安心して自分の気持ちや考えを表すことができるようにする。 |

| | |
|------|--|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会生活に必要な基本的な生活習慣や自主、協調の態度を身に付ける。 ●友達との園生活を楽しみいろいろな遊びを活発に行う。 ●身近な自然や事象に興味関心を持ち、知的好奇心や探究心を高める。(豊かな感性) |
|------|--|

| 期 | 3期(9月~10月) |
|--|--|
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ●自分なりのイメージを持ち、遊びの場を作ったり、見立てたりして遊ぶ。 ●友達とのつながりを感じ、同じものを作ったり、同じような動きをしたりする。 ●クラスの友達と一緒に話を聞こうとするようになり、みんなでする活動に喜んで参加する。 ●年長児の活動を憧れの気持ちを持って見たり、まねしたりしようとする。 |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ●園生活のリズムを取り戻し、好きな遊びを友達と楽しむ。 ●戸外で大勢の友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ●友達と一緒にいろいろな活動に参加することを楽しむ。 |
| 経験する内容 (健康) (人間関係) (言葉) (表現) (環境) | <ul style="list-style-type: none"> ●友達や保育教諭とかかわって遊ぶ中で、園生活のリズムを取り戻していく。 ●衣服の調節や手洗いうがいの大切さを知り、自分でする。 ●進んで運動遊びに取り組み、体を動かすことを楽しむ。 ●異年齢児の友達に親しみを持ち、一緒に遊ぶ。 ●気の合う友達と一緒に、好きな遊びを楽しむ。 ●簡単なルールのある遊びを、友達と一緒に楽しむ。 ●経験したり思ったりしたことを、保育教諭や友達に話したり、疑問に思ったことを聞いたりする。 ●音楽に合わせて歌ったり、踊ったり、体を動かしたり、感じたことを自由に表現する楽しさを味わう。 ●夏から秋への自然の移り変わりに気付く。 ●友達と一緒に歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりして楽しむ。 |
| 保育教諭の配慮と環境構成 | <ul style="list-style-type: none"> ●園庭の整備、遊具や器具の点検を行い、安全に運動ができるようにする。 ●様々な運動遊びを楽しめるよう、いろいろな遊具や用具を用意する。 ●一人ひとりの発見や経験を、皆に知らせる機会を設け、お互い認め合い励まし合える関係をつくれるようにする。 ●友達とのかかわりの中で、子どもの思いを十分に受け止めながら、相手の思いにも気付かせていくようにする。 ●持ち物の始末や、生活の流れを繰り返し知らせ、身に付くようにする。 |
| 養護 | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの健康状態を把握し、気温の変化に応じて衣服の調節や室温、換気に配慮し、快適に過ごせるようにする。 ●子どもの気持ちを温かく受容し、個人差を配慮しながら、安定して過ごせるようにする。 |

| | |
|------|--|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会生活に必要な基本的な生活習慣や自主、協調の態度を身に付ける。 ●友達との園生活を楽しみいろいろな遊びを活発に行う。 ●身近な自然や事象に興味関心を持ち、知的好奇心や探究心を高める。(豊かな感性) |
|------|--|

| 期 | 4期(11月~12月) |
|--|---|
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ●気の合う友達とのかかわりを楽しみ、思いを伝え合いながら遊びを続けようとする。 ●身の回りの自然物や事象、いろいろな素材に興味関心を持つ。 ●運動遊びを楽しむ中で、競争心や友達を応援する気持ちが芽生えてくる。 ●危険な場所や遊び方に気付き、安全な行動を意識できるようになってくる。 |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな遊びに積極的に参加し、友達と触れ合いながら、共通の目標を持って集団で活動することを楽しむ。 ●自然や身近な事物、事象に触れ、興味関心を深める。 ●安定した生活、人的環境の中で、意欲的に行動する。 |
| 経験する内容 (健康) (人間関係) (言葉) (表現) (環境) | <ul style="list-style-type: none"> ●衣服の調節、手洗いやうがいの大切さを知り、自分でする。 ●進んで運動遊びに取り組み、体を動かすことを楽しむ。 ●友達とのつながりを感じながら、ルールを守って遊ぶ。 ●散歩や戸外活動を通して、秋の自然に触れ遊ぶ。 ●秋の自然に触れ、いろいろなものの数、形、色、量に気付く。 ●経験したり思ったりしたことを、保育教諭や友達に話したり、疑問に思ったことを聞いたりする。 ●音楽のリズムを楽しみ、歌や簡単な分担奏を楽しむ。 ●身近な素材を使って、いろいろな造形を楽しむ。 ●絵本や生活体験からイメージを広げ様々な方法で表現して遊ぶ。 |
| 保育教諭の配慮と環境構成 | <ul style="list-style-type: none"> ●子どもの遊びの様子を見て、必要なものを一緒に準備をしたり、片付けたりする。 ●繰り返し遊ぶ楽しさが感じられるよう、時間や場の保障をする。 ●好きな友達同士で、じっくり遊べるような環境を工夫する。 ●友達関係が広がってくる時期なので、大勢で遊べるゲーム等を提案していく。 ●遊びの中で、一人ひとりの良さを、認めていくようにする。 |
| 養護 | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの健康状態を把握し、気温の変化に応じて衣服の調節や室温、換気に配慮し、快適に過ごせるようにする。 ●子どもの気持ちを温かく受容し、個人差を配慮しながら、安定して過ごせるようにする。 |

| | |
|------|--|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会生活に必要な基本的な生活習慣や自主、協調の態度を身に付ける。 ●友達との園生活を楽しみいろいろな遊びを活発に行う。 ●身近な自然や事象に興味関心を持ち、知的好奇心や探究心を高める。(豊かな感性) |
|------|--|

| 期 | 5期(1月~3月) |
|--|---|
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ●友達のしていることを自分の遊びに取り入れ、生活や遊びに進んで取り組む姿が見られる。 ●友達の気持ちを受け止めて、遊ぶことを楽しむ。 ●きまりを守ろうとする気持ちも芽生え、問題が起きたとき自分たちで解決しようとする。 ●自分なりに生活の見通しをもち、身の回りの事ができるようになる。 |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ●友達とのかかわりの中で自分なりの力を発揮しながら、遊びや活動をする。 ●生活に必要な習慣や態度が身に付き、自分でできることの範囲を広げ、自信を持って行動する。 |
| 経験する内容 (健康) (人間関係) (言葉) (表現) (環境) | <ul style="list-style-type: none"> ●生活の見通しを持ち、進んで身の回りのことをする。 ●寒さに負けず、戸外で全身を使った遊びを十分に楽しむ。 ●友達と親しみを深め、一緒に考えたり工夫したりして遊ぶ。 ●異年齢児の友達をいたわったり、愛情を持ったりする。 ●冬の自然現象に興味関心を持ち、見たり触れたりする。 ●生活や遊びの中で、数や量などに興味関心を持つ。 ●自然の変化に気付き、春の訪れを感じる。 ●感じたこと、想像したことなどを言葉や身体、音楽、造形など自由な方法で表現して楽しむ。 ●年長児から当番の仕事などを引き継ぎ、進級することに期待を持ち、喜んで取り組む。 ●保育教諭や友達の話を聞き、自分の思っていることや経験したことを話し、会話を楽しむ。 |
| 保育教諭の配慮と環境構成 | <ul style="list-style-type: none"> ●子どもの遊びの様子を見て、必要なものを一緒に準備したり、片付けたりする。 ●繰り返し遊ぶ楽しさが感じられるよう、時間や場の保障をする。 ●好きな友達同士で、じっくり遊べるような環境を工夫する。 ●生活や遊びの中で、数量的な感覚を育てるようにする。 ●年長児からの仕事を引き継ぐ機会を設け、遊びや仕事で年長児になるという自覚を持たせるようにする。 |
| 養護 | <ul style="list-style-type: none"> ●危険な事や健康に興味関心を持ち、生活に必要な習慣を身に付けられるようにする。 ●施設内の採光、換気、保湿、清潔などの環境を整えるようにする。 ●一人ひとりの成長を認め、自信を持っているいろいろな活動ができるようにする。 |

(6) 5 歳児 年間指導計画

| | |
|---|--|
| <p>年間目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●社会生活に必要な基本的な生活習慣や自主、協調の態度を身に付ける。 ●友達との園生活を楽しみ、色々な遊びを活発に行う。 ●身近な自然や事象に興味関心を持ち、知的好奇心や探究心を高める。(豊かな感性) |
| <p>期</p> | <p>1 期 (4 月~5 月)</p> |
| <p>子どもの姿</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●年長になった喜びや期待があり、意欲的に生活する一方、不安や緊張感を持つことがある。 ●基本的な生活習慣は身に付いているが、細かい部分では支援が必要なこともある。 ●好きな遊びを見つけて楽しむなど、友達と一緒に戸外での活動が活発になる。 ●異年齢児の子どもに、やさしさや思いやりの気持ちを持って、手助けしてあげようとする気持ちを持つようになる。 |
| <p>ねらい</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●新しい生活に慣れ、安心して保育教諭や友達と一緒に生活や遊びを楽しむ。 ●年長になったことを喜び、異年齢児と親しみをもちて遊ぶ。 ●身近な動植物に触れたり、世話をしたりして親しみをもち。 |
| <p>経験する内容</p> <p>(健康) (人間関係) (言葉) (表現) (環境)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●気の合う友達と、戸外で体を十分に動かして遊ぶ。 ●危険なことがわかり、安全に気を付けて生活する。 ●友達との生活の中で、きまりの大切さに気付く。 ●異年齢児と喜んでかかわり、親しみをもち。 ●身近な動植物に親しみをもち、見たり、触れたりする。 ●共同で使う物を大切に扱い、自分の持ち物を整理する。 ●周りの人と親しみをもち、日常の挨拶を交わしたり、自分の経験や思いを話したりする。 ●絵本や紙芝居などを見たり、聞いたりして言葉の面白さに興味関心を持つ。 ●友達と一緒に楽しく歌ったり、リズムに合わせて身体表現をしたりして楽しむ。 ●様々な素材や用具を使って、描いたり作ったりする。 |
| <p>保育教諭の配慮と環境構成</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●春の自然に興味関心を持てるよう、種まきや生き物の世話ができる環境や絵本や図鑑なども用意する。 ●子ども達と共に生活の場を作り、新しい約束事を作っていくようにする。 ●遊具や生活に必要な物の置き場は、わかりやすく表示する。 ●自分たちで遊びが進められる時間や場所の保障をし、友達と共同的な遊びが進められるようにする。 ●子ども達が伸び伸びと遊べるよう、園内外の環境を点検し、危険のないように整えておく。 ●個人差を考慮し、一人ひとりの様子を把握するとともに、個々の情緒の安定を図り、好きな遊びや生活に取り組めるようにする。 ●困ったことなど自分たちで解決しようとする気持ちを持ち、子ども同士が会話できるよう支援する。 |
| <p>支援</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの健康状態や生活リズム等を把握し、無理のないよう生活の仕方を知らせていく。 ●一人ひとりの気持ちを受け止め、共感しながら、子どもとの信頼関係を築いていく。 |

| | |
|-------------|---|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会生活に必要な基本的な生活習慣や自主、協調の態度を身に付ける。 ●友達との園生活を楽しみ、色々な遊びを活発に行う。 ●身近な自然や事象に興味関心を持ち、知的好奇心や探究心を高める。(豊かな感性) |
|-------------|---|

| 期 | 2期(6月~8月) |
|---|---|
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ●遊びの中で、自分なりに試したり、工夫したり、やってみようとする気持ちを持って意欲的に取り組む。 ●友達との遊びのなかで、その力関係や遊びに対する考えの違いから、ぶつかり合いがみられることがある。 ●生活の仕方がわかり、自分でしようとする。 ●身近な動植物に興味関心を持って見たり、世話をしたりする。 ●異年齢児の交流の場が多くなり、親しみを持って生活や遊びを楽しむようになる。 |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ●好きな遊びを楽しみながら、友達とのつながりを広げたり、深めたりする。 ●身近な動植物や自然に興味関心を持ち、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。 ●友達と思いや考えを出し合いながら、遊びを楽しもうとする。 |
| 経験する内容 (健康) (人間関係) (言葉) (表現) (環境) | <ul style="list-style-type: none"> ●気の合う友達と、戸外で体を十分に動かして遊ぶ。 ●気温の変化を感じ、自分で衣服の調節をしたり、体や身の回りを清潔にしたりする。 ●自分たちで簡単なきまわりを作り、遊びに取り入れながら友達と一緒に遊びを発展させる。 ●プールや水遊びのきまわりを守り、十分に遊ぶ。 ●生活や遊びの中で、親しみを持って異年齢児とかかわる。 ●身近な用具の使い方に慣れ、安全に使う。 ●自分の思っていることを相手にわかるように話し、人の話もよく聞く。 ●絵本や童話、図鑑などを見たり、聞いたりするなかで想像を膨らませる。 ●見たこと、経験したことを、いろいろな素材や用具を使って、自分なりに表現する。 |
| 保育教諭の配慮と環境構成 | <ul style="list-style-type: none"> ●夏の自然に、興味関心を持ってかかわれる環境を準備し、試したり工夫したりできる素材や、場所と時間を十分に保障する。 ●自ら選んで取り組める場や活動を多くするとともに、一人ひとりが頑張る力を試せるような場を設定する。 ●一人ひとりの子どもの欲求を満たし、安心して過ごせるようにする。 ●グループで取り組み活動を取り入れ、少ない人数の中で、思いを伝え合う機会を持つ。 ●子ども同士の間関係を丁寧に読み取り、集団の中の一人ひとりを理解する。 ●一人ひとりが伝えようとする思いを、保育教諭が十分受け止め、自分を受け止めてくれる心地よさを感じられるようにする。 |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの健康状態を十分に把握し、休息、睡眠、水分の補給などを適宜に行うようにする。 ●情緒の安定を図り、自分の気持ちや考えを表すことができるようにする。 |

| | |
|-------------|--|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ● 社会生活に必要な基本的な生活習慣や自主、協調の態度を身に付ける。 ● 友達との園生活を楽しみ、色々な遊びを活発に行う。 ● 身近な自然や事象に興味関心を持ち、知的好奇心や探究心を高める。(豊かな感性) |
|-------------|--|

| 期 | 3期(9月~10月) |
|---|---|
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ● 体を動かす遊びに喜んで参加し、繰り返し遊ぶ姿が見られる。 ● 遊びや活動の場面で、それぞれ役割を持ち、協力して自分たちで発展させようとする。 ● 運動会への興味関心が高まり、自分なりに目標を持って取り組み、面白さを感じる。 ● 異年齢児との共通の場が増えてきて、年長児としてリードする姿が見られる。 |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ● 友達と共通の目的を持って協力しながら、活動に意欲的に取り組む。 ● 異年齢児とのかかわりを深め、相手の気持ちを受け入れて遊ぶ。 ● 季節や生活の変化に気づき、自然物を受け入れた遊びを工夫して楽しむ。 |
| 経験する内容 (健康) (人間関係) (言葉) (表現) (環境) | <ul style="list-style-type: none"> ● 気の合う友達と、戸外で体を十分に動かして遊ぶ。 ● 様々な用具や遊具を使い、積極的に身体を動かして運動遊びを楽しむ。 ● 友達と共通の目的に向かって力を合わせて取り組む中で、満足感や達成感を味わう。 ● 身近な自然に触れ、季節や生活の変化に気づき、自然物を使って様々な遊びを楽しむ。 ● 身近な公共物や施設に興味関心を持ち、皆が共同して使う物を大切にする。 ● 皆で共通の話題について話し合うなかで、自己主張をしたり、友達の話を受け入れたりする。 ● いろいろな素材や用具を使い、イメージしたものを膨らませながら、友達と協力して作ることを楽しむ。 ● 皆といろいろな音楽を聴いたり、踊ったりして楽しさを味わう。 ● 友達と遊ぶなかでルールを確認したり、自分たちで作ったりしながら、集団遊びを楽しむ。 |
| 保育教諭の配慮と環境構成 | <ul style="list-style-type: none"> ● 興味関心を持った運動遊びが十分できるよう、遊具や用具を準備したり、安全面に配慮したりする。 ● 自然に触れる機会を多く持ち、季節を感じたり遊びに取り入れて遊んだりするようにする。 ● みんなで取り組む面白さや楽しさ、協力することや責任感などが味わえるよう、子どもの思いに共感したり認めたりする。 ● 子どもの力が発揮できるような場や機会を用意し、自信を持ったり、友達から認められたりするうれしさを感じられるようにする。 ● 意見の違いや葛藤場面を通して、子ども達で乗り越えられるよう、励ましたり見守ったりして一人ひとりを支えていく。 |
| 看護 | <ul style="list-style-type: none"> ● 一人ひとりの健康状態を把握し、気温の変化に応じて室温の温度調節や換気を行い、快適に過ごせるようにする。 ● 一人ひとりの思いや葛藤を受け入れながら、仲間のなかで安心して自己発揮ができるようにする。 |

| | |
|-------------|---|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会生活に必要な基本的な生活習慣や自主、協調の態度を身に付ける。 ●友達との園生活を楽しみ、色々な遊びを活発に行う。 ●身近な自然や事象に興味関心を持ち、知的好奇心や探究心を高める。(豊かな感性) |
|-------------|---|

| 期 | 4期(11月~12月) |
|--------------------------------|---|
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ●できるようになったことを喜び、いろいろな活動に自信を持って、意欲的に取り組むようになる。 ●身近な自然や社会現象に関わり、興味関心を持つ。 ●遊びや活動の場面で、それぞれ役割を持ち、協力して自分たちで発展させようとする。 |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ●友達と共通の目的を持って、協力しながら活動に意欲的に取り組む。 ●冬の生活や、自然の変化に興味関心を持つ。 ●季節や生活の変化に気づき、自然物を受け入れた遊びを工夫して楽しむ。 ●異年齢児とのかかわりを深め、相手の気持ちを受け入れて遊ぶ。 |
| 目指す内容 (目標) (ねらい) (内容) | <ul style="list-style-type: none"> ●気の合う友達と、戸外で体を十分に動かして遊ぶ。 ●様々な運動器具や遊具を安全に使い、全身を動かして積極的に遊ぶ。 ●友達と遊ぶなかでルールを確認したり、自分たちで作ったりしながら、集団遊びを楽しむ。 ●友達と役割を決め、助け合って遊ぶなかで、問題を解決し相手の立場を考えて行動しようとする。 ●日常生活の中で、文字、標識、記号、時計などに興味関心を持つ。 ●いろいろな素材や用具を使い、イメージしたものを膨らませながら、友達と協力して作ることを楽しむ。 ●絵本や童話に親しみ、想像したり表現したりすることを楽しむ。 ●皆と一緒に歌ったり、楽器を演奏したりして楽しむ。 ●身近な自然に触れ、季節や生活の変化に気づき、自然を使って様々な遊びを楽しむ。 ●皆で共通の話題について話し合う中で、自己主張したり、友達の話を受け入れたりする。 |
| 保育教諭の配慮と環境構成 | <ul style="list-style-type: none"> ●みんなで話し合ったり、協力したりできるような活動の工夫をする。 ●繰り返し遊ぶ楽しさが感じられるよう、時間や場の保障をする。 ●戸外での遊びを楽しみ、秋の自然を感じたり、冬の訪れを感じたりする。 ●生活の中で起きた問題や友達のトラブルなどを、自分のこととして受け止め、解決していけるよう、話し合いの場を大切にする。 ●共通の目的を自分の目当てとして取り組めるよう、丁寧に話し合いをしたり、個別に声をかけたりするようにする。 ●保育教諭自らが季節の変化に興味関心を持ち、子どもに気付かせていく。 |
| 健康 | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの健康状態を把握し、気温の変化に応じて室温の温度調節や換気を行い、快適に過ごせるようにする。 ●一人ひとりの思いや葛藤を受け入れながら、仲間の中で安心して自己発揮ができるようにする。 |

| | |
|-----------------------|---|
| <p>年間目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●社会生活に必要な基本的な生活習慣や自主、協調の態度を身に付ける。 ●友達との園生活を楽しみ、色々な遊びを活発に行う。 ●身近な自然や事象に興味関心を持ち、知的好奇心や探究心を高める。(豊かな感性) |
| <p>小学校との連携</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●指導要録を送付する。 ●園児と小学校の児童とが交流する機会を持つ。 ●円滑な接続ができるよう、小学校や保育所との情報交換会を実施し、卒園児の様子を聞いて、今後の保育の参考にする。 |

| <p>期</p> | <p>5期(1月~3月)</p> |
|---|---|
| <p>子どもの姿</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●仲間意識が高まり、友達と一緒に目的を持ったり、見通しを立てたりして遊びや活動を進めるようになる。 ●文字や数を使って遊ぶことを楽しむなど、知的好奇心が高まってくる。 ●就学への期待をもちながら、意欲的に生活や遊びに取り組もうとする。新しい環境や生活に不安を見せる子どももいる。 ●身近な自然や社会事象などに、興味関心が高くなる ●進んで異年齢児とかかわり、自分たちがしてきた遊びや仕事を伝える。 |
| <p>ねらい</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●小学校入学への期待を膨らませ、自覚や自信を持って意欲的に活動する。 ●冬の生活や自然の変化に興味関心を持つ。 ●友達と協力し、共通のイメージを持って取り組み、最後までやり遂げる充実感を味わう。 |
| <p>経験する内容 (健康) (人間関係) (言葉) (表現) (環境)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●気の合う友達と、戸外で体を十分に動かして遊ぶ。 ●冬の健康的な生活に必要な習慣がわかり、気を付けて過ごす。 ●異年齢児と積極的にかかわり、優しい気持ちを持って接したり、声をかけたりする。 ●友達とかかわる中で、お互いの良いところを認め合い、励まし合う。 ●雪や氷など、冬の自然現象に積極的にかかわり、疑問を持ったり、試したりする。 ●経験したことや感じたことを、文字や言葉で伝えようとする。 ●文字や数を使った遊びを繰り返し楽しみ、自分たちの遊びや生活に取り入れていく。 ●いろいろな素材を使ったり、自由な発想で伸び伸びと表現し、飾ったり見せ合ったりして楽しむ。 ●卒園に向けて行う活動に意識を持って、意欲的に取り組む。 |
| <p>保育教諭の配慮と環境構成</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●友達やクラス全体で表現したり、創作したりできるような機会を設け、協力して活動する楽しさや充実感を味わえるようにする。 ●見通しを持って行動できるよう、時間や生活の流れをわかりやすく表示したり伝えたりする。 ●文字や数に興味関心を持てるよう、表示したり、文字表などの準備をする。 ●試したり、発見したり、繰り返し挑戦したりする楽しさを味わい、自分たちで取り組んだ充実感が味わえるようにする。 ●異年齢の子と一緒に活動したり、遊んだりできるように、学年の連携を図る。 ●入学に向けての不安を受け止め、期待と自信を持って入学できるようにする。 |
| <p>評価</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの健康状態を常に把握し、異常を感じたときは適切に対応するとともに、子ども自身からも訴えることができるようにする。 ●一人ひとりの成長を認め、自信を持って活動できるようにし、小学校入学への期待が持てるように見守っていく。 |

3 特別な支援を要する幼児への保育・幼児教育

特別な支援を必要とする子どもの可能性を伸ばし、生活するために必要な「生きるための基礎」を培うために、保護者や関係機関と連携し、一人ひとりの子どもに合わせたよりきめ細やかな保育・幼児教育を行うことが大切である。

そのために、発達や支援を必要とする状況を把握し、集団生活を通して成長することができるよう、次のような点を踏まえて特別支援教育を進めていく必要がある。

(1) 幼児理解

- ①個人記録を作成し、実態把握をするなかで課題を見つける。
- ②指導者間での話し合いを常にもち、子どもが成長してきた過程や心身の状態を把握し理解を深め、支援の在り方について共通理解する。

(2) 個別の教育支援計画・指導計画の作成

①個別の教育支援計画 ※P38参照

- 一人ひとりの困り感を把握し、長期的な視点で支援していくため保育所・幼稚園・認定こども園が中心となって関係機関と連携し、適切な支援を行う。
- 障がいのある子どもについて、乳幼児期から学校卒業までの一貫した長期的な計画を作成する。作成にあたっては関係機関との連携が必要であり、保護者の参画や意見等を聞くことが求められる。

②個別の指導計画

- 支援計画に基づき、具体的な指導目標（短期のねらい）、支援内容などをまとめて作成し、支援のポイントに即して指導を行う。状況や場合によって、保護者と共に作成することも大切である。
- 幼児・児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容・方法を盛り込んだ指導計画が必要である。（例えば、単元や学期、学年等ごとに作成され、それに基づいた指導）

(3) 支援体制づくり

- ①子どもが安定して遊んだり活動に取り組んだりするための空間の確保や、環境の工夫を行う。また、必要に応じて教材を作成し活用する。
- ②子どもの実態に応じて、個別支援を行い、障がいの特性をしっかりと捉え、それに応じた支援を行うようにする。
- ③支援を要する子どもを支えていくためのクラス集団の育成に努める。さらに、全体で共通の認識を持って子どもを支えていけるよう共通理解を図り、体制づくりを行う。
- ④「合理的配慮」は、一人ひとりの障がいの状態や教育的ニーズに応じて決定されるものであり、設置者・学校と本人・保護者により、可能な限り合意形成を図った上で決定する。

(4) 保護者との連携

- ①保護者の悩みや思いに寄り添い、安心して相談できるような対応を心がけるなかで、信頼関係を築くように努める。
- ②子どもの様子を伝えたり、家庭での様子も聞きながら課題を伝えたりすることで、

保護者と一緒に成長、発達を支えていくようにする。

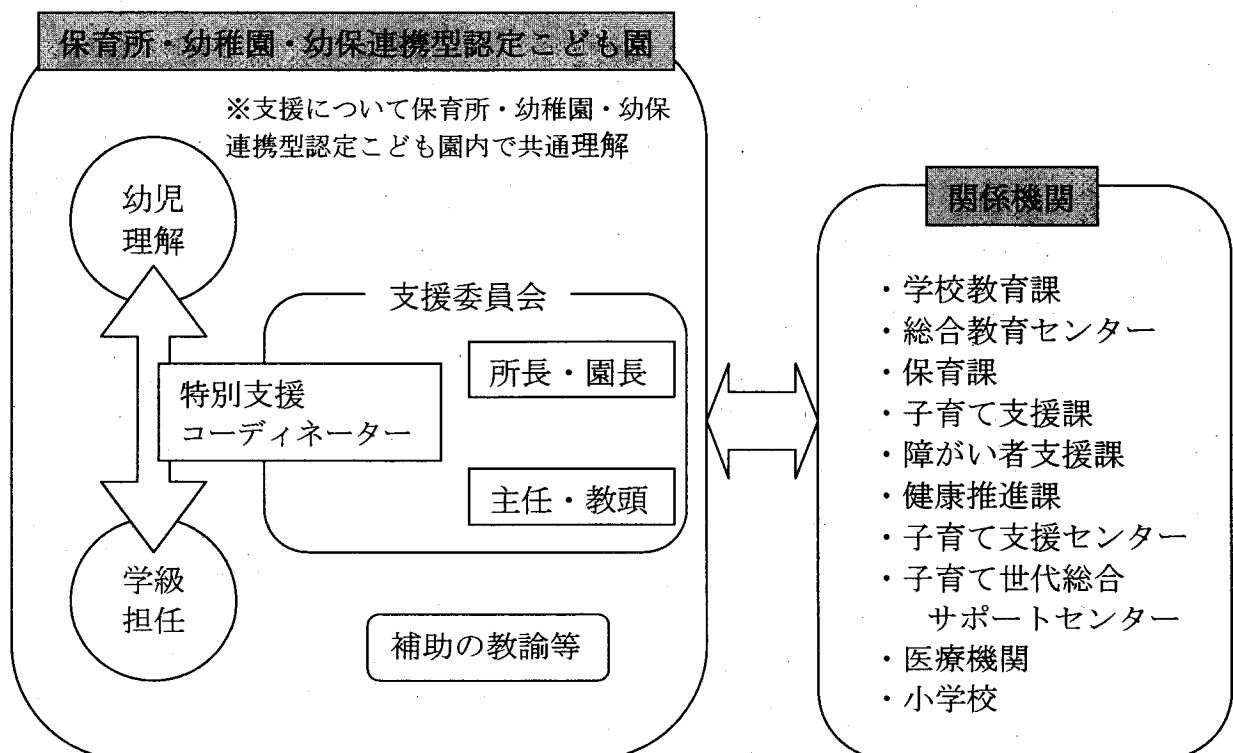
- ③行事などの前には、保護者に活動の様子を参観してもらい、子どもの活動についての理解を促すようにする。
- ④保育所・幼稚園・認定こども園での指導法や対応上での工夫や配慮を伝え、家庭でも取り入れ、協力してもらえるようにする。
- ⑤他の子どもの保護者に対しても、お互いに育ち合う子どもの姿を通して、障がいに対しての理解を深めてもらえるようにする。

(5) 専門機関および関係機関との連携

- ①巡回相談員の訪問や特別支援アドバイザーの派遣などにより、子どもの様子を参観しての指導や、具体的支援の方法や個別指導の計画作成に向けての指導を受ける。
- ②総合教育センター就学相談や子育て支援センター相談窓口などと情報交換を行い、子どもの様子を参観してもらうことで、指導の方向性や手立てを確認し、共通理解する。必要に応じて保護者に子育て相談を勧める。

初めて集団生活を過ごすことで、発達障がいなどの疑いに気付くことがある。同時に、発達障がいであるかどうか判断しにくい例もあるため、保護者にどのように実態や課題を伝えて連携をとっていくかという点で、難しい場合もある。専門機関との連携を通して保育所・幼稚園・認定こども園がアドバイスを受けることで、より専門的な支援や多面的な支援につながるとともに、保護者や専門家の話を聞くことで、不安の解消や支援の見通しを持つことにもつながる。

大切なことは、「障がいを判定する」ということではなく、しっかりと実態や課題を見極め、個に応じた支援をすることである。これらのことについて、保護者に理解を促し、心の面でのサポートをしながら連携していくことが必要である。そのうえで、専門機関への相談を勧め、小学校との引き継ぎを密にし、学校生活で必要な支援が受けられるようにしていくことが重要となってくる。



袖ヶ浦シートの活用 (個別教育支援計画作成時に使用します)

※この他に園内での支援用シート、園外の機関との協力支援シートがあります

袖ヶ浦シート1 (学級で担任が支援するために) 作成日:平成 年 月 日 記入者()

幼稚園・保育所用

書きにくい枠は、他の先生方に相談して、一緒に考えてみましょう。

本人・担任が 困難に思っていること

本人: _____

担任: _____

太線枠に記入しましょう。その他の枠は、気が付いたときや話し合ってから書き込みましょう。
※空欄があっても良い

それは、いつ、どこで、どれくらいあるの?

なぜ、そのことが起こるのか?(どんなとき?)

子どもの様子

コミュニケーションの様子は?

好きなこと、得意なことは?

簡単な指示が理解できる?

嫌いなこと・苦手なことは?

組 _____ さん

について

気持ちの切り替えはできる?

友達と遊べる?(友人関係等)

返事ができる?(どんな様子?)

本人の思い・願い

家庭での様子は?(話し方・お手洗い・遊び等)

保護者の思い・願い

頑張りそうなのことは?

その他、気になることは?

他の先生方と話し合ったこと

どんな子どもの?・何につまんでいるの?

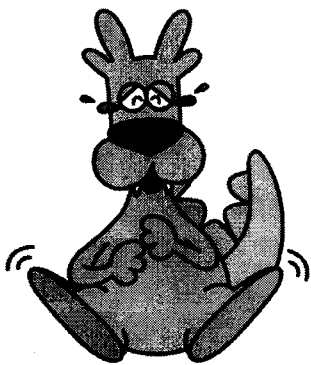
どんな支援が必要か?

支援を行ってどうだった?(評価)

・書き込むスペースが足りない場合は、裏面や新しい用紙を付け足すなどして対応していきましょう。

第3章 小学校への接続

- 1 滑らかな接続
- 2 幼児教育カリキュラムからの小学校の指導の在り方
- 3 保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の
アプローチカリキュラム
 - (1) 学ぶ力について
 - (2) かかわる力について
 - (3) 生活する力について
 - (4) 小学校との交流計画例
- 4 スタートカリキュラム (入学間もない時期の各教科・領域の指導)
 - (1) 入学期 (4月第1週) の指導のポイント
 - (2) 指導の実際
 - (3) 1年生の年間を通した生徒指導計画例
- 5 資料

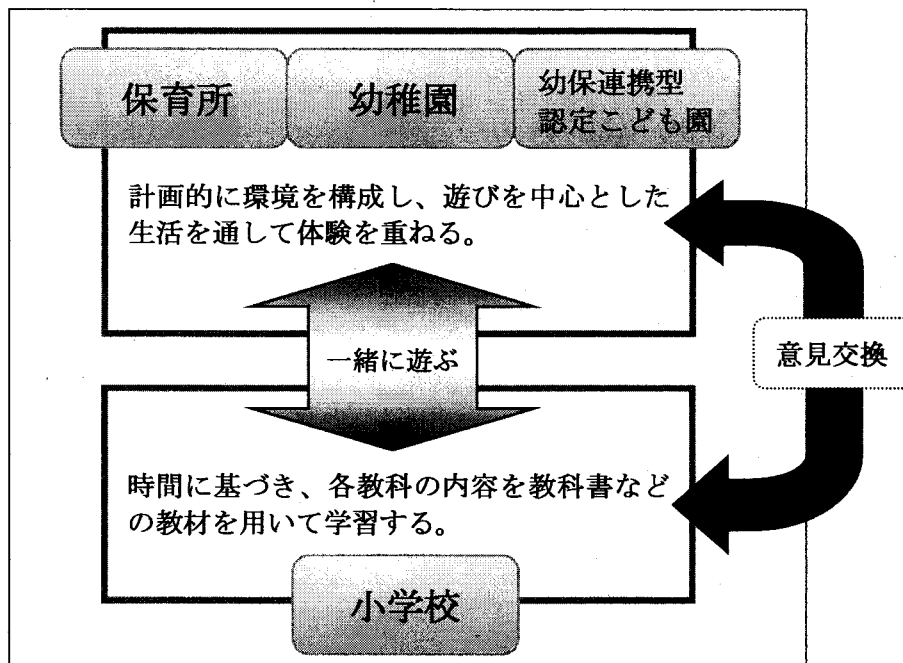


1 滑らかな接続

幼児の発達や学びの連続性を確保する観点から、小学校教育への滑らかな接続に向けた教育及び保育の内容の工夫を図ることが必要になる。それには、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の園児と小学校の児童の交流機会を設けたり、小学校教師との意見交換や保育参観、授業参観等の機会を設けたりするなど、連携を通じた保育・幼児教育の質の向上を図らなければならない。

保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園における具体的な活動については、さまざまな場面が考えられるが子どもたちは、様々な交流を通して、小学校生活への憧れの気持ちを持ったり、自分の未来を見通すことができたりするようになる。さらには、小学校の校舎や校庭、学校生活の流れの一端を知り、小学校生活に安心感と期待感を持つことに繋がる。一方、小学校においては、年下の幼児と接することで、自分の成長に気付いたり、思いやりの心を育んだりすることができる。

このことから、意義のある交流活動をするには、相互のねらいや方法などを踏まえ、継続的・計画的に取り組むことが大切になってくる。また、保育教諭・小学校教諭等による、所園校の相互参観や合同研修など職員の同士の交流も重要な取組である。



2 幼児教育カリキュラムからの小学校の指導の在り方

保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園においては、小学校就学前までに「生きる力の基礎の育成」を保育や教育のねらいとしており、幼児が身に付けるべき事柄を掲げている。これらのねらいと内容を、発達の側面から5領域に編成している（P3参照）。この5領域の指導のポイントを「育てたい3つの力：①学ぶ力②かかわる力③生活する力」としてまとめ、「アプローチカリキュラム」として提示することにより、保育・幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図りたい。

小学校においては、このアプローチカリキュラムの内容を把握しておく必要があり、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園での経験を基にした指導を行うことが求められる。普段の授業や学校生活を通して、生きる力の育成や自己実現を目指す心の成長の実現に努めていきたい。

3 保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の アプローチカリキュラム

(1) 学ぶ力について

(興味・関心を持ち自分なりに考え、表現する力)

育てたい子どもの姿

- 身近な事物・事象・文字や数量などに関心を持ち、遊びや生活に取り入れる。
- 自分の興味・関心のあるものに、触れる・見る・聞く・つくるなど、試行錯誤しながらかかわる。
- 自分なりのめあてを持ち、それに向かって試したり挑戦したりする。
- 自分のしたいことが実現できた嬉しさを感じ、満足感や達成感を得る。
- 制作活動を通して、基礎技能を習得し、様々な活動に取り組む。
- 音楽に親しみ、歌ったり踊ったりすることを楽しむ。
- 多様な運動遊びを経験し、体の様々な部分を動かして楽しむ。

保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園での指導

| | |
|------------------|---|
| 学 芽 生 え | <ul style="list-style-type: none"> ○身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で物の性質・仕組み、数量、文字に対する興味関心を広げる。 ○保育室環境(掲示物)に、図表や写真に加えて文字環境を増やし、必要に応じて子どもの名前や物の名前を表示したりして、文字や数字への興味・関心を高めていく。 ○朝・帰りの会等必要に応じて一日の中で話を集中して聞く時間を設ける。 ○図書コーナーを利用し、自分で好きな本を選んで読めるようにしたり、物語の楽しさに気付いたりできるようにし、文字に親しむ機会を増やす。 ○遠足や行事など、共通の体験をした時や休み明けなどには、自分の感じた事や経験したことなどを発表する場を設ける。 |
| 運 表 動 現 | <ul style="list-style-type: none"> ○長縄・短縄・フラフープなどの運動器具を操作する遊びや、固定遊具・ボールなどに触れる遊び、また、走る・跳ぶ・よじ登る・ぶら下がるなど、多様な運動遊びを豊富に経験し、体の様々な部分を滑らかに動かせるようにして、体力や体支持力などをつけるようにする。 ○ルールのある遊びの中で、思い切り自分の力を出して運動したり、友達と競い合ったりすることを楽しむ経験を計画する(リレー遊び・鬼遊びなど)。 ○簡単な制作遊びを通して、正しいはさみの扱い方・糊の使い方など、基礎技能を確実に習得できるようにする。また、折り紙や手紙をきちんと折る・こまを回すなど、手先の細やかな動きがスムーズにできる経験をする。 ○色鉛筆や鉛筆に触れる機会を意図的に作り、正しい鉛筆の持ち方を意識できるようにする。 ○音楽に親しみ、みんなで歌ったり簡単なリズム楽器で表現したりする楽しさを感じる経験ができるようにする。 |

保護者との連携

- *結果だけを評価せずに、取り組む過程の大切さに子どもが気付けるようなかかわり方をする。
- *失敗を責めるのではなく、子ども自身がなぜそうなったかに気づき、次への意欲が持てるように励ましていく。
- *親子で家事や運動をしたり自然に触れたりし、一緒に過ごす中で子どもの気持ちに気づき共感する。

(2) かかわる力について

(他者とかがわり合い、ともに生活をつくりだす力)

育てたい子どもの姿

- 「してよいこと」「してはいけないこと」を自分で判断できるようになり、社会のきまりの大切さなどを理解し、守りながら行動する。
- 挨拶をしたり、感謝の気持ちを言葉で伝えたり、困っている人には言葉をかけ、力になろうとする。
- 話を聞くときの態度がわかり、相手の話を最後まで聞く。
- 危険な場所がわかり、安全に行動する。
- 目的に向かって友達と考えを出し合い、協力して進める。
- 友達の良さに気付き、互いに認め合う関係をつくる。

保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園での指導

| | |
|--------------------|--|
| 規範意識 | <ul style="list-style-type: none"> ○先生や友達と共に生活する中で様々な葛藤体験をし、子ども自身が考え、きまりや約束を守ることの大切さに気付いていくように援助する。 ○安全・危険の判断が必要な場面を意図的に作り、子ども自身が考えて行動できるようにする。 ○場に応じた言葉遣いや声の大きさ等が意識できる。 |
| 聞く力 話す力 伝える力 | <ul style="list-style-type: none"> ○担任の話を集団で聞いたり、みんなの前で話したりする経験を多くさせる。 ○クラスやグループで話し合う機会を徐々に増やしていきながら、自分の考えを相手にわかるように話したり、友達の話を最後まで聞いたりする態度を養う。 ○生活の中で、話を聞くだけでなく、自分の話を聞いてもらう喜びも体験できるようにする。 |
| 友達との関係作り | <ul style="list-style-type: none"> ○個々の良さや得意なことがクラスの中で認め合える機会を意図的に作り、互いに刺激し合い、育ち合えるクラス集団をつくる。 ○行事での係活動・当番活動・発表会等、目標に向かって友達と協力して取り組み、やり遂げる経験を多く持てるように計画する。 ○協同的な活動や日常生活を通し、自分の考えや気持ちを言葉にして相手に伝えていく。相手の話を聞いたり、気持ちを受け入れたりする中で自分をコントロールする場面を増やす。 ○友達との考えの違いや、うまくいかない状況が起きた時には、それぞれの園児の主張や気持ちを十分受け止め、互いの思いが伝わるようにし、納得して気持ちの立て直しができるようにしていく。 |
| 担任との関係 | <ul style="list-style-type: none"> ○クラス全体で取り組む活動では、ルールに沿って動いたり、担任の合図を聞いて動いたりする等、クラス全体の中で自分の行動を意識できるようにする。 ○クラスの一人としての所属意識を持ち、年長児として係活動や行事の準備などで役割を果たす経験をする中で、自分たちの成長や自己有用感を持てるようにする。 |

保護者との連携

- * 日常生活の様々な場面で、家族や身近な人に積極的に挨拶をさせたり、「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉が言えるようにさせたりする。
- * 子どもの話にゆっくりと耳を傾ける時間を作り、子どもが「聞いてもらったうれしさ」を感じられるようにする。
- * 家庭でも気持ち良く生活するための約束事を決め、守れるようにしていく。

(3) 生活する力について

(環境の変化に対応する力・身辺自立や生活習慣などに関する力)

育てたい子どもの姿

- 一日の生活を見通し、状況に応じて行動したり自分たちで生活を進めたりする。
- 話を聞くときの態度がわかり、状況や場に応じた態度を取ることができる。
- 自分でできる身の回りのことは自分です。
(衣服の着脱や調節・脱いだ衣類をたたむ・靴を揃える・片付ける)
- 遊び場や自分の持ち物を準備したり整理したりする。
- 早寝・早起きの習慣を身に付ける。
- 食事は、好き嫌いなく食べる。
- 自分で排泄の始末をする。

保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園での指導

| | |
|----------|---|
| 保育環境 | <ul style="list-style-type: none"> ○日々の生活の中で椅子に座る機会を増やす。 ○季節感のある作品の展示やカレンダー、一週間や一日の流れなどの掲示場所を固定し共通の話題となる機会にする。 ○知的好奇心を高めるきっかけになるような文字や数などの環境を整える。 |
| 一日の生活時程 | <ul style="list-style-type: none"> ○活動の区切りをつけやすくするように時計を活用する。 ○朝の会を意図的に設け、日にちや曜日、天気などを確認し、一日の活動の流れなど見通しを持って自ら進んで行動できるようにする。 ○思い切り体を動かした後は休息をとる。食後や降園前などは落ち着いて過ごすなど静と動の活動の組み合わせに配慮する。また、午睡なしの生活リズムを確立させる。 |
| 身の回りの始末 | <ul style="list-style-type: none"> ○個人ロッカーや道具箱の中など定期的に整理する時間を設けたり整え方を知らせたりして、意識して片付けができるようにする。 ○ハンカチやティッシュペーパーをいつも身に付けるようにする。 ○一定時間内に着替え終わることを意識させ、脱いだ服はたたむ習慣が身に付くようにする。 ○立ったまま靴の脱ぎ履きを行う、脱いだ靴を揃える、靴箱にしまうことを習慣にする。 |
| 食排 事池 | <ul style="list-style-type: none"> ○屋食の終わりの時間を知らせ、20～25分位で食べ終えることができるようにする。 ○保育所においては、給食の配膳を子どもが協力してできるように簡単な盛り付けを経験できるようにする。 ○トイレの使い方やトイレトペーパーの使い方を繰り返し伝え、活動の区切りの時間を利用して排泄を済ませるようにする。和式と洋式のトイレの使い方を意識する。 |

保護者との連携

- * 「早寝、早起き、朝ご飯」で生活リズムを整え、家庭でも落ち着いて楽しく食事をしながら、箸の持ち方を意識したり、マナーを身に付けたりすることができるようにする。
- * 子ども自身が翌日の持ち物（ハンカチ、ティッシュ、着替えなど）の準備ができるようにし、登園時に自分で靴や手提げが持てるようにする。
- * 外出の時は、和式トイレを使用する機会を作るようにする。

(4) 小学校との交流計画例

①交流の目的

- ・子ども一人ひとりが自然な形で学校環境に慣れ親しみ、学校生活に期待と憧れを持ち、意欲を持って就学できるようにすることを目指す。

②ねらい

- ・小学校への入学に向けて、自然な形で学校環境に慣れ親しむ機会を作る。
- ・小学生が幼児と一緒に過ごしたり、かかわったりする中で思いやりや支え合う気持ちを持つ。
- ・保護者や教員が、それぞれの子どもの発達段階・指導内容・方法などを相互に理解したうえで、滑らかな接続のために連続性を持った保育・幼児教育を行う。

| | 子どもたちの交流活動 | ねらい | 職員連携 | 留意すべきポイント |
|----------------------------|---|---|---|---|
| 4 ・ 5 月 | ○年長児と1年生の遊びを通しての交流 | ○交流活動等に関する情報交換をする。 ○なかよしの友達を作る。 | ○保・幼・小の連携会議 ○活動をするにあたり話し合いや活動内容の相談 | ○今年度どのような交流がもてるか相談し見直しを持つ。 ○情報を共有する。 ○1年生と年長児が円滑にかかわり合えるよう配慮する。 |
| 6 ・ 7 ・ 8 月 | ○小学校運動会の練習の見学 ○小学校のプール施設を借り、プール遊び(小学校のプール) | ○なかよしの友達の応援をする。 ○小学生にあこがれの気持ちを持つ。 ○プール遊びを通して水に慣れる。 | ○日程調整(保・幼からの見学) ○日程調整(交流を目的としない) | ○友達になった小学生の活動を見て憧れの気持ちを持つ。 ○交流を目的としないが、小学生の泳ぎや活動を見て刺激を受ける。 ○小学校の大きなプールに慣れさせる。 |
| 9 ・ 10 月 | ○高学年児童(特に5年生)と交流 ○保・幼運動会の練習見学(1年生との交流) | ○お兄さん、お姉さんへのあこがれの気持ちを持つ。 ○なかよしの友達を応援する。 | ○高学年との日程の調整 ○活動内容の検討及び日程調整(小学校からの見学) | ○園児の入学時に最高学年となる5年生とのかかわりが円滑になるよう配慮する。 ○友達になった幼児の活動を見て親しみを持つ。 |
| 11 ・ 12 月 | ○まち探検受け入れ(2年生の課外活動) ○2年生と交流 | ○保・幼に探検に行き、成長した自分を見つめ直す。 ○読み聞かせなどの交流を通し、小学生に憧れの気持ちを持つ。 | ○日程調整(小学校からの訪問) | ○2年生に幼児の遊びや施設、先生の仕事を見てもらう。 ○可能であれば交流の時間を設ける。 ○じっくりと話を聞けるような環境の配慮をする。 |
| 1 月 | ○ドッジボール交流 ○こま等の昔遊び交流 ○校庭や教室で交流 | ○1年生との交流を楽しむ。 | ○日程調整 ○会を持つにあたり話し合いや活動内容の相談 | ○子ども達がスムーズにかかわり合えるよう配慮する。 ○お互いの関心のある遊びから交流の場を持つ。 |
| 2 月 | ○小学校見学(1年生の教室見学) | ○小学校の探検を通して学校生活への期待を持つ。 | ○日程調整 ○活動するにあたり話し合いや活動内容の相談 | ○小学校へ行く機会を意図的につくり就学への期待を持てるよう配慮する。 |
| 3 月 | | ○就学に関する情報交換をする。 | ○日程調整 ○卒園式の練習見学 | ○就学するにあたり、子どもの様子を見たうえで、丁寧に引き継ぎをしていく。 |

4 スタートカリキュラム（入学間もない時期の各教科・領域の指導）

スタートカリキュラムとは、一日も早く学校に慣れ、楽しい学校生活が送れるために、幼児期後期の学びの状況や発達段階を考慮した、入学式当日から一週間分の具体的なカリキュラムである。

（1）入学期（4月第1週）の指導のポイント

出会いの時期には、スキルを学習するのと同時に不安を解消することや心のエネルギーを充足するような取組も実施していくことが大切である。

- 児童に寄り添い、信頼関係を築きながら一人ひとりの実態を把握する。
 - ・聞き上手になる。
 - ・温かなまなざし、笑顔で寄り添う。
 - ・心の動きに敏感になる。
- 生活・学習の基本的な約束を身に付けさせることをめざす。
 - ・教科指導や生活のきまりの指導はあせらず、教師が手本を示していく。
 - ・思いやりのある注意の仕方を心掛ける。
- 入学当初の不安な気持ちに寄り添い、ほめる機会を多くする。

| 項目 | 指導のポイント |
|-----------|---|
| 指導方法と場の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ○視覚的な資料の活用、端的な説明、指導の形を変える等、指導方法を工夫することで飽きずに楽しく繰り返しを重ね、「できた」という喜びを大切ににする。 ○指示は一つずつ出す。できたらほめて次の指示を出す。 ○一方的な指導にならないように、考えさせる場を工夫する。 ○言葉だけの指示に偏らないよう、演示の場を多く取り入れる。 |
| 教科と授業時間 | <ul style="list-style-type: none"> ○枠にとらわれず、合科的な指導をする。 ○学習規律の指導（話の聞き方・発表の仕方・学習用具の置き方や使い方）をする。 ○楽しく、わかる授業を第一とする。 ○課題を終えた満足感を全員に味わわせる。 ○15分～30分の短時間の学習を組み合わせ、飽きないような工夫をする。 |
| 指導体制 | <ul style="list-style-type: none"> ○チーム・ティーチング等、必要なときには個別の対応ができる体制を整える。 ○指導が難しい場合は、チームを組んで指導にあたる。 |
| 環境 | <ul style="list-style-type: none"> ○その時間の内容や一日の予定をわかりやすく示すことで、見通しをもって過ごさせる。 ○教室の前面は、華美にせずすっきりとさせる。 |

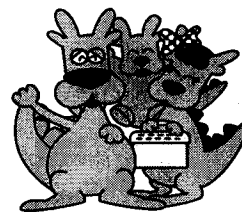
(2) 指導の実際

① 入学1日目(入学式) ～出会いを大切に～

- ・児童の呼名は目を見て一人ひとり丁寧に行う。
- ・「はい」という返事が自信を持ってできるように励ます。
- ・教室の位置、担任の名前、顔、声を覚えさせる。
- ・ティーム・ティーチングで指導する。T2は、児童を見守り、個別指導が必要な児童につく。
- ・一人ひとりと握手をし(コミュニケーションをとり)、「さようなら」をする。

毎日のセルフチェック事項

- 笑顔で迎える
- 一人ひとりに元気に挨拶する
- 一日に1回以上、全員の名前を呼ぶ
- ゆっくり話す
- 短く話す
- 目を見て話す
- 表情豊かに話す
- 丁寧で正しい文字を書く
- 休み時間にトイレに行くよう、そのつど声をかける
- ささいなことでもほめる
- 指示は1回について1つとする



② 入学2日目

| | 活動内容 | 指導上の留意点 |
|-----|---|---|
| 朝 | 朝の会 ○朝の挨拶 ○健康観察 | ○担任は教室で児童を迎えることができるようにする。(T2は靴箱や教室入り口付近で挨拶する) ○連絡帳に目を通す。 ○「はい。」という返事が自信を持ってできるように励まし、できたことを認める。 ○一日の学習の予定を簡単に伝え、黒板にカード等でわかりやすく示す。 ○ランドセルや学習用具の取り扱い方は、6年間の小学校生活の基本となるので、繰り返し指導する。 |
| 1校時 | 学級活動 ○ランドセルの入れ方と靴箱の使い方 ○学習用具の出し入れものかけの使い方 | ○朝のしたくの手順(短い言葉と絵)を黒板に掲示する。 ○「毎日持ち帰るもの」と「学校に置いておくもの」がわかるように絵で掲示する。 ○脱いだ上着のたたみ方を教え、ランドセルの上にきちんと置かせる。 ランドセル・・・向きをそろえ、肩ベルトをしまふ。 靴や上靴・・・取り出しやすいようにかかとを靴箱の手前にそろえる。 学習用具・・・道具箱や教科書が出し入れしやすいようにしまふ。 ものかけ・・・近くを通る人がぶつからないように、落ちないようにかける。 |
| 2校時 | 道徳 ○トイレ、水道の使い方 ○教室・廊下での約束 | ○写真や絵を使って、足を置く場所などを指導してから、実際に使う場所に行き指導する。 (座り方、立ち方、紙の使い方、レバーの押し方、ハンカチで手をふく等) ○教室の出入り、廊下歩行などの基本的な約束を知らせ、実際に個々に繰り返し行わせることで理解させる。 |
| 3校時 | 帰りのしたく 下校指導 ○下校班の並び方 ○道路の歩き方 | ○帰りのしたくの手順を黒板に掲示する。 ○机と椅子を整えて「さようなら。」のあいさつを行う。 ○手紙、プリント類の配付・・・連絡袋を机上に置かせ、担任が子どもの机をまわり配付する。 ○自分の下校班や通学路を覚えるとともに、正しい道路の歩き方を理解させる。 |

※入学第2日目以降の共通対応 ～学校生活の土台をつくる大切な時～

- 登校してくる児童一人ひとりの名前を呼びながら迎え、挨拶の仕方を知らせる。
- 朝の会で一日の学習予定を簡単に伝え、黒板にカード等でわかりやすく示す。
- 次の授業の開始時刻を黒板に示してから、休み時間にする。(時計の模型を示すのもよい。)
- すべての時間をティーム・ティーチングで指導する。
- 金曜日は、持ち帰る物が多いので、絵で掲示し、1つずつチェックする。

③ 入学3日目

| | 活動内容 | 指導上の留意点 |
|-----|-------------------------------|---|
| 朝 | 朝の会 ○朝の挨拶 ○健康観察 | ○担任は教室で児童を迎えることができるようにする。(T2は靴箱や教室入り口付近で挨拶する) ○連絡帳は必ず朝提出させ、必ず目を通す。 ○健康観察では、個々の児童の様子を観察し、適宜「元気そうですね。」「笑顔で先生を見てくれているね。」などの肯定的な声掛けをしながら行う。「はい、元気です。」といった定型文の指導は学級の実態に応じて行う。 ○一日の学習の予定を簡単に伝え、黒板にカード等でわかりやすく示す。 |
| 1校時 | 国語 ○話の聞き方、話し方 ○挨拶、返事の仕方 | ○聞くときは、手に何も持たず、おへそと目を話し手の方に向けるように促す。 ○座ったときの姿勢をリズムよく唱え(グー・ペタ・ピン)、正しい姿勢を理解させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>おなかと背中にグーひとつ 足裏は床にペタペタ 背中はピン</p> </div> ○話すときは、一番離れた人に聞こえる声で話すように促す。 ○教科書、ノートはおへその前に置く。 ○読み聞かせや全体指導の際に、返事をしたり発表をしたりする機会を設け、応答の雰囲気慣れさせる。また、誰にでも答えられる質問をして挙手の意欲を高める。 ○聞き方が上手な子やきちんと返事ができる子を認め励ます。 |
| 2校時 | 国語 ○自己紹介 | ○1時間目に学習した返事の仕方、話し方を思い出して、自分の名前と好きなものを紹介するよう促す。また、友達の名前も覚えさせる。 ○緊張しやすい児童には、教師が横についたり一緒に声を出したりして安心させる。 |
| 3校時 | 音楽 ○校歌の練習 | ○導入はみんなが知っている歌を全員で歌うなど、取り組みやすいものにする。 ○2年生に教室にきてもらい、校歌を教えてもらうときに「お願いします。」「ありがとう。」が大きな声で言えるようにするとともに、学校での身近なお兄さん、お姉さんの存在を感じることができるようし、安心感を持たせる。 ○小学校の一員であることの自覚と、のびのびと声を出すことで、表現することの心地よさを味わわせる。 |



④ 入学4日目

| | 活動内容 | 指導上の留意点 |
|-----|-----------------------------|---|
| 朝 | 朝の会 ○朝の挨拶 ○健康観察 | ○担任は教室で児童を迎えることができるようにする。(T2は靴箱や教室入り口付近で挨拶する) ○連絡帳は必ず朝提出するように指導し、必ず目を通す。 ○健康観察では、個々の児童の様子を観察し、適宜「元気そうですね。」「笑顔で先生を見てくれているね。」などの肯定的な声掛けをしながら行う。 ○「はい。」という返事が自信を持ってできるように言えるようにし、できたことを認める。 ○一日の学習の予定を簡単に伝え、黒板にカード等でわかりやすく示す。 |
| 1校時 | 国語 ○話の聞き方、話し方 ○鉛筆の持ち方 | ○前日に学んだことを思い起こさせ、繰り返し練習させる。 ※短い言葉でリズムよく覚えさせる。 ○「話す名人になろう」…「はい・立つ・です」 名前を呼ばれたら「はい」と返事をして「立つ」 話は「です」まで丁寧に言う。 ○「聞く名人になろう」…「せ・め・て」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">せすじを伸ばす めを見て て遊びしない</div> ○鉛筆の正しい持ち方を図(写真)資料で理解させ、いろいろな線を楽しくこなせる活動の中で、個々の持ち方を確認するようにする。 |
| 2校時 | 学校行事 ○避難訓練 | ○防災頭巾の着脱練習、避難の約束(おすしも)。 ○避難経路の理解を通して、安全な行動を身に付けさせる。 ○避難の約束は合言葉で覚えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">おさない すばやく しすかに もどらない</div> |
| 3校時 | 体育 ○遊具の使い方 ○並び方の練習 | ○服の着脱の仕方、脱いだらきちんとたたむことを教える。 ○一緒に校庭を歩き、危険な遊び方、遊んではいけない場所を知らせる。 ○校庭に出て、様々な遊具に触れながら安全に使うことができるようになる。 ○「遊ぶ」→「並ぶ」を繰り返しながら徐々に素早く並ぶことができるようにする。 ○2列の整列、前へならえの練習を繰り返す。 |
| 4校時 | 学級指導 ○手洗いの指導 ○給食指導 | ○養護教諭に正しい手洗いの仕方を指導してもらい。その後、「手洗いの仕方」の絵を掲示し、毎日振り返ることができるようにする。 ○待ち方や食べ方で、よい姿勢や態度について認めてほめる。 ○当面は少なめに配膳し、残さず食べることに重点を置く。おかわりも教師がアドバイスして少しずつにし、食べきったことをほめる。 ○手伝いにきてくれた6年生に「お願いします。」「ありがとう。」が大きな声で言えるようにする。 ○後片付けのルールを理解させる。 |

⑤ 入学5日目

| | 活動内容 | 指導上の留意点 |
|-----|-------------------------------|---|
| 朝 | 朝の会 ○朝の挨拶 ○健康観察 | ○担任は教室で児童を迎えることができるようにする。 ○連絡帳は必ず朝提出するように指導し、必ず目を通す。 ○「はい」という返事が自信を持って言えるようにし、できたことを認める。 ○一日の学習予定を簡単に伝え、黒板にカード等でわかりやすく示す。 |
| 1校時 | 国語 ○話の聞き方、話し方 ○自分の名前を書く | ○今までに学んだことを思い起こさせ、繰り返し練習させる。 ○名前の書き方の練習をし、自分の名前を丁寧に書かせる。早く終わった児童には、ぬり絵やお絵かきなどをさせ、鉛筆を持つことに慣れさせる。 |
| 2校時 | 国語 ○教科書、ノートの扱い方 | ○教科書とノートの組み合わせを知り、しまい方・出し方がスムーズにできるようにする。 ○教科書・ノート・筆箱の位置を示す。写真を掲示していつでも振り返ることができるようにする。 ○教科書の表紙の絵を見て、想像を広げ自由に話させたり、目次を見て、学習の見通しを持たせたりする。 |
| 3校時 | 生活 ○廊下の歩き方 ○並び方の練習 | ○校舎を巡りながら、廊下や階段を歩くときのルールに気付かせる。 (場所を順次増やししながら、短時間に何回も行うとよい。) 右側歩行・・・人とぶつからないようにするため 静かに歩く・・・授業中の妨げにならないようにするため ○いろいろな並び方を理解させ、場に応じた並び方ができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">静かに 素早く 美しく</div> |
| 4校時 | 学校行事 ○身体計測 | ○服の着脱の仕方、身体計測の受け方・マナーを知るとともに、今まで学習してきた返事・挨拶・並び方を思い起こさせ、よりよい態度を身に付けさせる。 |

※スタートカリキュラムの1週間だけで定着することではないので、視覚的な資料等を掲示し、子どもたちが自ら振り返ったり、思い出したりする手立てを工夫していくことが大切である。

(3) 1年生の年間を通した生徒指導計画例

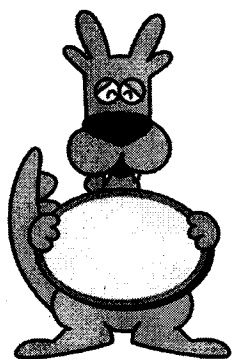
| | 月別生活目標 (全校共通) | 1年生の重点指導事項 |
|-----|---------------|--|
| 4月 | 明るいあいさつをしよう | ○あいさつ・返事・言葉づかい(「おはようございます」「はい」「～です」「～ます」) ○話の聞き方(目・耳・心・おへそを向けて) ○時間を守る(チャイム席) |
| 5月 | きまりを守って生活しよう | ○係活動と当番活動(日直・掃除・給食) ・係…係名を考える、連絡・お願いの時間 ・日直…朝の会・帰りの会の司会 ・掃除…掃除用具の名前と扱い方(ほうき、ちりとり、雑巾の拭き方と洗い方・絞り方、机の運び方)、片付け方、身支度 ・給食…白衣の着替え、仕事の分担 |
| 6月 | 雨の日の過ごし方を考えよう | ○雨の日の遊びのルール ○食育(好き嫌いなく食べること) ○水泳の約束 |
| 7月 | すみずみまで掃除をしよう | ○日直のスピーチ(テーマ、5W1H、声の大きさ、発音・発声) ○ごみを見つけたら進んで拾う。 ・机の中、ロッカー等の整理整頓、掃除 |
| 9月 | 時間を守って生活しよう | ○早寝・早起き・朝ごはん ○夏休み作品発表会 ○時間を守る(タイマー・時計を見て意識) |
| 10月 | 落ち着いて学習に取り組もう | ○後期の目標(学習面・生活面) ○後期の係決め |
| 11月 | 本をたくさん読もう | ○本をたくさん読む ・たくさん読み聞かせをする |
| 12月 | 寒さに負けず体を鍛えよう | ○向寒マラソン練習 ○学級集会活動の企画(お楽しみ会等) |
| 1月 | かぜの予防をしよう | ○かぜの予防(うがい、手洗い、マスク等) ・外遊び(縄跳び等) |
| 2月 | 学習のまとめをしよう | ○話し合い活動の基本(司会の仕方、話し合いのルール等) ○音読・漢字・ひらがな・10の合成分解・繰り上がりのあるたし算・繰り下がりのあるひき算等の復習 |
| 3月 | 感謝の気持ちを伝えよう | ○6年生を送る会・卒業式に向けて ○もうすぐ2年生 ○お別れ会 |

5 資料

保育所・幼稚園で経験してきた手遊び・歌（わらべうた）・絵本

保育所・幼稚園で習った「手遊び・歌（わらべうた）・絵本」を小学校の「朝の会」や「集会」で扱うことで児童は、みんなで一緒に楽しむことができる。また、入学当初に予定されることの多い「1年生を迎える会」等でも活用できる。

| | 春 | 夏 | 秋 | 冬 |
|--------------|--|---|---|---|
| 手遊び | <ul style="list-style-type: none"> ●やおやのおみせ ●きゃべつの中から ●グー・チョコ・パー ●はじまるよ ●お弁当箱 ●カレーライス | <ul style="list-style-type: none"> ●さかながはねた ●ワニのおとうさん ●1と1でどんな音 ●1. 2. 3 ●おちた、おちた ●ずいずいずっころばし | <ul style="list-style-type: none"> ●おおきな栗の木の下で ●やきいも ●グーチーパー ●さんまのひらき ●くいしんぼうのゴリラ ●メロンパンの歌 ●お寺の和尚さん | <ul style="list-style-type: none"> ●おおきくなったらなんになるう ●つくしんぼ ●ウルトラマン ●アルプス一万尺 |
| 歌 (わらべうた) | <ul style="list-style-type: none"> ●チューリップ ●かえるの合唱 ●コイノポリ ●おおがたバス ● Rond 橋落ちた ●なべなべそこぬけ ●ドキドキドン1年生 | <ul style="list-style-type: none"> ●たなばたさま ●かたつむり ●おばけなんてないさ | <ul style="list-style-type: none"> ●とんぼのめがね ●どんぐりころころ ●きのこ ●たきび ●まつぼっくり ●まっかな秋 ●あぶくたった ●おはぎの嫁入り | <ul style="list-style-type: none"> ●あわてんぼうのサンタクロース ●赤鼻のトナカイ ●お正月 ●みんなともだち ●おもいでのアلبム ●一年生になったら ●かごめかごめ |
| 絵本 | <ul style="list-style-type: none"> ●こすすめのぼうけん ●11ぴきのねこシリーズ ●そらまめくんシリーズ ●おたまじゃくしの101ちゃん ●ぐりとぐらシリーズ ●おだんごばん ●おおきなかぶ | <ul style="list-style-type: none"> ●にじいろのさかな ●どろぼうがっこう ●しずくのぼうけん ●ばばばあちゃんシリーズ ●からすのパンやさん ●スイミー ●さんまいのおふだ ●ろくべいまってろよ ●めっきらもっきらどおんどん | <ul style="list-style-type: none"> ●とんぼのうんどうかい ●おおきなおおきなおも ●つきのぼうや ●だいふくもち ●ふるやのもり ●はらぺこあおむし | <ul style="list-style-type: none"> ●チロヌップのきつね ●てぶくろ ●はなをくんくん |
| ものがたり | <ul style="list-style-type: none"> ●おいしいのぼうけん | <ul style="list-style-type: none"> ●ざりがにのおうさままっかちん ●いやいやえん ●ロボット・カミイ | <ul style="list-style-type: none"> ●ダンプえんちょうやっつけた ●もりのへなそうる ●たんたのたんけん | <ul style="list-style-type: none"> ●エルマーのぼうけん |



策定までの経緯

策定組織

○策定までの経緯

| 年 | 月 | 策定委員会 | 作業部会 |
|--------|-----|--|---|
| 平成28年度 | 8月 | 第1回策定会議（日時）8月2日13:30 （策定委員） ・策定理由説明 ・概要説明 ・策定スケジュール ・計画の構成及び役割分担の決定 | 第1回作業部会（日時）8月25日15:00 （作業部会員） ・素案検討・作成 |
| | 9月 | | 第2回作業部会（日時）9月16日15:00 （作業部会員） ・素案検討・作成 |
| | 10月 | | 第3回作業部会（日時）10月14日15:00 （作業部会員） ・素案検討・作成 |
| | 11月 | | 第4回作業部会（日時）11月17日15:00 （作業部会員） ・素案検討・作成 |
| | 12月 | 第2回策定会議（日時）12月21日13:30 （策定委員） ・経過報告（作業部会）・意見聴取 ※作業部会リーダー参加 | 第5回作業部会（日時）12月14日15:00 （作業部会員） ・素案検討・作成 |
| | 1月 | | 第6回作業部会（日時）1月27日15:00 （作業部会員） ・素案検討・作成 |
| | 2月 | | 第7回作業部会（日時）2月24日15:00 （作業部会員） ・素案完成 |
| | 3月 | 第3回策定会議（日時）3月10日15:00 （策定委員） ・報告（作業部会）・意見徴収 ※作業部会リーダー参加 | |
| 平成29年度 | 4月 | | 作業部会の修正及び調整 |
| | 5月 | | 作業部会の修正及び調整 |
| | 6月 | | 作業部会の修正及び調整 |
| | 7月 | 第4回策定会議（日時）7月28日13:30 （策定委員） ・報告（作業部会）・意見徴収 | 作業部会リーダーへ報告 修正及び調整 |
| | 8月 | | 第8回作業部会（日時）8月4日13:00 （保幼小連携部会員） |
| | 9月 | | 校正 |
| | 10月 | | 校正 |
| | 11月 | | 印刷製本 公表 |

○策定組織

袖ヶ浦市幼児教育カリキュラム策定委員

| | 所 属 | 28年度 | 29年度 | 備 考 |
|------|-----------------|--------|--------|---------|
| 委員長 | 教育長 | 川島 悟 | 御園 朋夫 | |
| 副委員長 | 教育部長 | 井口 崇 | 石井 俊一 | |
| 副委員長 | 福祉部長 | 宮嶋 亮二 | 宮嶋 亮二 | |
| 委 員 | 教育部次長 | 森田 泰弘 | 高橋 広幸 | |
| 委 員 | 有識者 | 小川 一夫 | 小川 一夫 | 元中川幼稚園長 |
| 委 員 | 小学校校長代表 | 在原 徹 | 井関 徹太郎 | |
| 委 員 | 今井幼稚園長 | 伊藤 俊彦 | 伊藤 俊彦 | |
| 委 員 | 中川幼稚園長 | 藤川 敏 | 石渡 衛 | |
| 委 員 | 公立保育所長代表 | 高橋 悦子 | 高橋 悦子 | |
| 委 員 | 公立保育所長代表 | 稲毛 則子 | 稲毛 則子 | |
| 委 員 | 子育て支援課長 | 今関 磨美 | 今関 磨美 | |
| 委 員 | 学校教育課長 | 今宮 公雄 | 庄司 三喜夫 | |
| 委 員 | 学校教育課副参事 | 井関 徹太郎 | 鈴木 大介 | |
| 事務局 | 保育課長 | 小阪 潤一郎 | 高浦 正充 | |
| 事務局 | 総合教育センター所長 | 前沢 幸雄 | 北原 政志 | |
| 事務局 | 学校教育課指導主事 | 齋藤 智史 | 齋藤 智史 | 部会リーダー |
| 事務局 | 福王台・久保田保育所上席保育士 | 工藤 美幸 | 工藤 美幸 | 部会リーダー |
| 事務局 | 中川幼稚園教頭 | 吉田 恭子 | 吉田 恭子 | 部会リーダー |
| 事務局 | 総合教育センター研究指導主事 | 今関 博徳 | 今関 博徳 | 部会リーダー |

袖ヶ浦市幼児教育カリキュラム作業部会員

| 検討部会 | 所 属 (28年度) | 氏 名 | 備 考 |
|---------------|----------------|--------|--------|
| 総合計画 | 総合教育センター研究指導主事 | 白木 克也 | |
| | 子育て支援課副課長 | 竹川 義治 | |
| | 保育課副課長 | 高浦 正充 | |
| | 学校教育課副参事 | 井関 徹太郎 | |
| | 学校教育課指導主事 | 齋藤 智史 | 部会リーダー |
| | 吉野田保育所上席保育士 | 多田 美枝子 | |
| | 今井幼稚園教頭 | 山田 美智子 | |
| 年齢別 カリキュラム | 総合教育センター研究指導主事 | 矢部 やよい | |
| | 保育課栄養士 | 齋藤 未央 | |
| | 福王台保育所上席保育士 | 工藤 美幸 | 部会リーダー |
| | 久保田保育所総括保育士 | 佐藤 葉子 | |
| | 中川幼稚園教頭 | 吉田 恭子 | 部会リーダー |
| | 今井幼稚園主任教諭 | 平野 朋美 | |
| | 平岡小学校教務主任 | 飯島 伸之 | |
| 保幼小との連携 | 蔵波小学校教諭 | 小路 健太郎 | |
| | 総合教育センター研究指導主事 | 今関 博徳 | 部会リーダー |
| | 子育て支援課主査 | 地曳 雅樹 | |
| | 保育課副主査 | 松尾 晋治 | |
| | 根形保育所総括保育士 | 佐久間 静江 | |
| | 中川幼稚園総括上席教諭 | 榎本 美津江 | |
| 根形小学校教務主任 | 前田 元子 | | |